

総合博物館 小林快次准教授に北海道文化奨励賞

AO入試・国際総合入試・帰国子女入試の合格発表

大学入試センター試験，本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定



■ 全学ニュース

- 1 総合博物館 小林快次准教授に北海道文化奨励賞
- 2 AO入試合格者の発表
- 2 国際総合入試合格者の発表
- 3 帰国子女入試合格者の発表
- 4 大学入試センター試験、本学一般入試個別学力検査等実施体制等の決定
- 6 北大フロンティア基金
- 8 10年にわたる大型研究プロジェクト、WPI-ICReDDの幕明け前夜
- 10 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業で出張講義を実施
- 12 「しなやかなタフポリマー」による革新的コンセプトカー“I toP”を一般公開
- 12 平成30年度国立大学法人運営費交付金の追加配分（本学関係分）の主要事項
- 13 2018年第2回新渡戸スクールメンターフォーラムを開催
- 14 北海道大学総長奨励金給付証書及び北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行政
- 14 2018 WinGS Global Networking Award 受賞者が決定
- 15 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第36回「赤い糸会&緑の会」を開催
- 16 衛生管理者連絡会を開催
- 16 「SAPPOROおみやげパワーアップフェア in 北大」を開催
- 17 シンポジウム「北海道の魚類養殖－新たな可能性を探る－」を開催
- 17 平成30年度第1回サステナブルキャンパス推進員会議を開催
- 18 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーション、人獣共通感染症グローバルステーションが外部評価でS評価を獲得

■ 部局ニュース

- 19 学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）平成30年度「大学における文化芸術推進事業」報告会に参加
- 20 農学研究院ピークルロボティクス研究室の野口伸教授が人気小説シリーズ及びドラマへ協力
- 21 農学研究院で第11回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- 22 生命科学院で「第6回生命科学国際シンポジウム」を開催
- 23 第1回（平成30年度）法学研究科アドバイザー会議を開催
- 23 医理工学院で第2回学生研究発表会及び第2回企業との交流会を開催



衛生管理者連絡会

学芸員リカレント教育プログラム(学藝リカプロ)
平成30年度「大学における文化芸術推進事業」報告会

革新的コンセプトカー“I toP”を一般公開

2018年度第2回
新渡戸スクールメンターフォーラム

- 24 環境健康科学研究教育センター、人獣共通感染症リサーチセンターが第3回世界保健機関西太平洋地域協力センターフォーラムに参加
- 25 平成30年度低温科学研究所公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了
- 25 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「中国文学の中の食－美食をめぐる謎－」が終了
- 26 経済学部で札幌国税局長の特別講演会を開催
- 27 経済学部で特別講演会を開催
- 27 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
- 28 第13回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催
- 28 工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
- 29 工学研究院等安全衛生管理室で企業等見学研修会を実施
- 29 歯学研究院で「動物供養祭」を挙行政
- 29 薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行政
- 30 北海道大学病院で平成30年度地域連携懇話会を開催
- 30 平成30年度北極域課題解決人材育成講座「北極域科学概論」を開催
- 31 脳科学研究教育センターで合宿研修を開催
- 32 初代総長佐藤昌介の扁額を大学文書館で受贈
- 32 田中義廣関係資料を大学文書館で受贈

■ 諸会議の開催状況 33

■ 学内規程 34

■ 研修

- 34 平成30年度国立大学法人北海道大学会計実務研修
- 35 平成30年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修クエリ編）

■ 表敬訪問 35

■ 訃報

- 36 名誉教授 有馬 俊六郎 氏

■ 資料

- 37 平成30年度外国人留学生数（平成30年11月1日現在）
- 38 平成30年度国別外国人留学生数（平成30年11月1日現在）
- 39 北大時報掲載記事事項別一覧（平成30年掲載分）

低温科学研究所 平成30年度公開講座
「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」

脳科学研究教育センター合宿研修

表紙：SAPPOROおみやげパワーアップフェア in 北大（関連記事16頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景㊟ 終焉近き札沼線

■ 全学ニュース

総合博物館 小林快次准教授に北海道文化奨励賞

総合博物館の小林快次准教授が、平成30年度北海道文化奨励賞を受賞しました。この賞は、北海道の芸術、科学、教育その他の文化の向上発達に関して、その功績が顕著で今後の活躍が特に期待される個人または団体に贈られるものです。小林准教授は、我が国の恐竜研究の第一人者として、むかわ竜をはじめとする恐竜化石の研究、発掘で活躍し、恐竜化石を通じた古生物学の普及、啓発など、北海道の自然科学の発展に寄与したとして、北海道文化奨励賞が贈呈されました。

10月29日（月）、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、北海道文化賞及び北海道文化奨励賞の贈呈式が行われ、高橋はるみ知事より賞が贈呈されました。贈呈式には、むかわ町竹中喜之町

長にも同席いただき、また会場には、西井準治理事・副学長、総合博物館の大原昌宏教授と湯浅万紀子教授、むかわ町教育長やむかわ町穂別博物館館長、むかわ町民の方々にも参列いただきました。

小林准教授は受賞者挨拶で、「この賞は、私個人ではなく、『むかわ竜』に与えられた賞です。私は13年前に北海道大学に着任しました。その間、北海道大学及び北海道大学総合博物館には、全面的なサポートをもらいながら恐竜研究者として育てていただいたことに感謝いたします。また、『むかわ竜』に関わってから6年が経ちました。むかわ町の方々の力強い協力によって、『むかわ竜』はむかわ町の宝、北海道の宝、日本の宝、そして世

界の宝として世の中に知れ渡るようになりました。むかわ町の方々のおかげで、北海道の恐竜文化を確立し発展させることができ、皆様には深く感謝申し上げます」と謝辞を述べました。さらに今年9月に発生した平成30年北海道胆振東部地震にふれ、「むかわ町の復旧復興はまだまだです。今、『むかわ竜』を復興のシンボルの一つとし、町民の方々は復興に向けて一生懸命頑張っているところです。今後も、北海道大学はむかわ町に対して全面的なサポートをし、さらなる発展に向けて頑張っていきたいです」と語りました。

（総合博物館）



贈呈式での小林准教授（中央）、竹中むかわ町長（左）、西井理事・副学長（右）



贈呈式での受賞者の記念撮影

AO入試合格者の発表

平成31年度AO入試は、募集人員54名に対し、108名の出願がありました。自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月25日（日）に第2次選考の課題論文（医学部保健学科を除く）と面接試験を実施し、12月11日（火）に合格者発表を行い、27名が合格しました。

なお、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表は、2月12日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

平成31年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等				募集人員	志願者数	倍 率	合格者数
理学部地球惑星科学科				5	20 (5)	4.0	5 (2)
医学部	医学科			5	2	0.4	
	保健学科	看護学専攻		7	17 (8)	2.4	
		作業療法学専攻		4	6 (2)	1.5	
歯学部				5	16 (5)	3.2	5 (1)
工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)			4	3	0.8	
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)			4	1	0.3	
水産学部				20	43 (4)	2.2	17 (3)
計				54	108 (24)	2.0	27 (6)

※ () 内の数字は、道内高校出身者で内数

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は、「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野を超えたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平成30年度入試より導入したもので、主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

平成31年度国際総合入試は、募集人員15名に対し、17名の出願がありました。自己推薦書、志望理由書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月25日（日）に第2次選考の面接試験を実施し、12月11日（火）に合格者発表を行い、11名が合格しました。このうち、8名は国際バカロレアの最終スコアが1月に発表のため、条件付合格となっています。

なお、条件付合格者の最終合格発表は、2月12日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

平成31年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	4 (3)	0.8	3(2) [2(1)]	
	理系	10	13 (8)	1.3	8(5) [6(3)]	
計		15	17 (11)	1.1	11(7) [8(4)]	

※ () 内の数字は、女子で内数

※ [] 内の数字は、条件付合格者数で内数

帰国子女入試合格者の発表

平成31年度帰国子女入試は、11学部・72名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月25日（日）に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月11日（火）に合格発表を行い、18名が合格しました。

（学務部入試課）

平成31年度帰国子女入試合格者数等一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	合格者数
文学部			若干名	6 (5)	－
教育学部				4 (2)	－
法学部				6 (1)	3
経済学部				13 (4)	－
理学部	数学科			2	2
	物理学科			3 (2)	1 (1)
	化学科			－	－
	生 物	生物学専修分野		－	－
	科学科	高分子機能学専修分野		3 (3)	2 (2)
	地球惑星科学科			－	－
医学部	医学科			6 (4)	－
	保健学科	看護学専攻		1 (1)	－
		放射線技術科学専攻		－	－
		検査技術科学専攻		－	－
		理学療法学専攻		－	－
		作業療法学専攻		－	－
	歯学部			1 (1)	－
薬学部				4 (2)	－
工学部	応用理工系学科			4 (4)	2 (2)
	情報エレクトロニクス学科			5 (1)	3 (1)
	機械知能工学科			8 (2)	4 (2)
	環境社会工学科			3 (2)	1
農学部				1 (1)	－
獣医学部				－	－
水産学部				2	－
計				72 (35)	18 (8)

※ () 内の数字は、女子で内数

大学入試センター試験，本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定

11月27日（火）開催のアドミッションセンター試験場部会拡大会議において，平成31年度大学入試センター試験及び本学一般入試個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお，大学入試センター試験については，藤女子大学，天使大学，東海大学札幌キャンパス，北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は，次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入試センター試験

1 実施本部の設置

試験実施について総括し，連絡・調整するため実施本部を設け，その下に総務部，試験場部，救急医療部，連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

（札幌市）

試 験 場 ・ 会 場	試 験 場 所	担 当 学 部 等
北 海 道 大 学 試 験 場		
農 学 部 会 場	農 学 部	農 学 部
人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※法 学 部 ・ 経 済 学 部
理 学 部 会 場	理 学 部	理 学 部
工 学 部 会 場	工 学 部	工 学 部
高等教育推進機構 A 会場	高等教育推進機構 E 棟 2 階	※教 育 学 部 ・ 文 学 部
高等教育推進機構 B 会場	高等教育推進機構 E 棟 3 階	※薬 学 部 ・ 歯 学 部
保健科学研究所 会場	保 健 科 学 研 究 院	※医 学 部 ・ 獣 医 学 部
高等教育推進機構 N 会場	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟	実 施 本 部 ・ 武 蔵 女 子 短 大
藤 女 子 大 学 試 験 場	藤 女 子 大 学	※天使大学・藤女子大学・東海大学

※は，複数学部で担当する試験場の主担当学部

（函館市）

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
北 海 道 大 学 水 産 学 部 試 験 場	水 産 学 部	水 産 学 部

なお，監督者説明会を平成31年1月8日（火）及び1月11日（金）に学術交流会館で開催しますので，監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

本学一般入試個別学力検査等

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※文 学 部 ・ 教 育 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第5試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※獣 医 学 部 ・ 医 学 部
第6試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高等教育推進機構E棟3階	※歯 学 部 ・ 薬 学 部
第7試験場（保 健 科 学 研 究 院）	保 健 科 学 研 究 院	※経 済 学 部 ・ 法 学 部
第8試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記8試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）

（第5試験場は、高等教育推進機構大講堂、N1、N2の教室を含む。）

（第5試験場の2日目は医学部が担当する。）

後期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※法 学 部 ・ 経 済 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（薬 学 部）	薬 学 部	薬 学 部
第5試験場（高等教育推進機構N棟）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟	歯 学 部
第6試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第7試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※教 育 学 部 ・ 文 学 部
第8試験場（獣 医 学 部）	獣 医 学 部	獣 医 学 部
第9試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高等教育推進機構E棟3階	医 学 部
第10試験場（水 産 学 部）	水 産 学 部	水 産 学 部
第11試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、監督者説明会を前期日程は平成31年2月19日（火）及び2月21日（木）、後期日程は3月5日（火）及び3月7日（木）に高等教育推進機構大講堂で開催しますので、前期日程又は後期日程において、監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（11月30日現在）

23,315件 4,611,842,195円

11月のご寄附状況

法人等11社、個人名の151名の方々から14,278,870円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

北空知信用金庫地域活性プログラム実行委員会、株式会社C＆Rコンサルタント、
新銀楡会（北海道大学衛生・環境工学科・衛生環境工学コース 関東地区同窓会）、医療法人社団 喜晴会 野田中央病院、
北大全学教育基礎科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 稔尚	阿部 実代	荒巻 久晃	安間 莊	井口 光雄	石山 喬	伊藤 明男
猪股 哲美	今井賢一郎	入澤 秀次	上田 昭平	江本 永二	扇 律子	大原 正範	岡田 裕
奥山 房子	小田原一史	小内 透	小野 薫	小原 大和	金川 眞行	河谷眞知子	河野 好治
川村 敏昭	河本 充司	川本 和浩	岸本 充	岸本 佳則	鬼頭 研二	倉田 博司	栗田 尚幸
桑島 滋	河野 一郎	五箇野紘一	小菅 充	斉藤 久	坂本 大介	桜田 通雄	佐藤 健一
佐藤長太郎	佐藤 義彦	三升畑元基	志済 聡子	島倉 良成	城田 昌良	杉江 和男	鈴木 貴之
瀬口 忠男	瀬名波栄潤	竹谷 千里	田村 康史	田谷 俊樹	土家 琢磨	土屋 裕	寺澤 睦
戸田 純子	豊田 威信	中塚 英俊	中村 富子	中村 正則	西井 準治	野海 清志	野口 淳史
幡谷 繁	林崎 弥生	林田 紀和	原 雅道	原田 幸二	平瀬 隆広	福田 文治	福田 佳之
福永 悟郎	藤田 祥	藤野 勝裕	藤森 明	別役 徹生	前田 博	政氏 伸夫	増山 邦彦
松沢 幸一	松原 謙一	松元 和幸	三上 一成	水上 隆史	水谷 洋一	三井 貴彦	皆川 一志
峰村 昭彦	宮下 昇	宮田 信幸	村上 明	村上 幸夫	森 隆広	森岡 一史	森岡 正信
山岸 慶昭	山口 良文	山下 孝典	山田 茂樹	山田 眞弓	山本 恵子	山本 惇	横井 成尚
横山 考	吉田 広志	和氣 光徳					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人）

北空知信用金庫地域活性プログラム実行委員会

(個人)

伊藤 明男, 上田 昭平, 岸本 充, 桑島 滋, 竹谷 千里, 田村 康史, 西井 準治, 原 雅道, 原田 幸二,
藤田 祥, 別役 徹生, 三上 一成, 水谷 洋一, 三井 貴彦, 森岡 正信, 山田 真弓, 山本 惇

感謝状の贈呈



湯川康史 様 (平成30年11月8日)



医療法人萬田記念病院 様 (平成30年11月12日)



岡山順子 様 (中央) (平成30年11月19日)



株式会社木村工務店 様 (平成30年11月28日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (北海道大学 百年記念会館内・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

10年にわたる大型研究プロジェクト、WPI-ICReDDの幕開け前夜



今回参加した拠点メンバー



会場の様子

本学が今年10月に採択された、文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」事業期間は10年間で、毎年約7億円の補助金が交付されます。拠点名は「化学反応創成研究拠点（Institute for Chemical Reaction Design and Discovery）」、通称「ICReDD（アイクレッド）」です。先日、ICReDD始動にあたり異分野融合の第一歩として、11名の主任研究者（Principal Investigator, 以下PI）が自身の研究について発表し、意見交換をしました。本ミーティングは学内関係者にも公開し、若手教員や学生など約120名が参加しました。

拠点長の前田 理教授は、「生命を含むすべてのものは、化学反応によってつくられています。歴史を辿ってみても、鉄の精製やハーバーボッシュ法

など、化学反応は世界を一変させてきました。ICReDDを通して化学反応により、医薬、食料、環境、材料などに関して貢献していくのが私たちの夢です。しかし、それほど大きな力を持っている化学反応ですが、それは試行錯誤の末（もしくは偶然）に発見されるものであり、発見までに膨大な時間が掛かります。私たちは、その化学反応のつくり方を一変していきたい。計算科学を使って未知の化学反応を予測し、そこから実験により実現可能な化学反応を発見していくという戦略を構築していきたいのです」と話しました。

副拠点長である伊藤 肇教授は、まずWPI事業について改めて説明しました。高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点の形成を目指すこの事業では、「世界最高レベ

ルの研究水準」「融合領域の創出」「国際的な研究環境の実現」「研究組織の改革」の4つの自主的な取り組みが求められています。「ICReDDの最終目標は、計算科学・情報科学・実験科学という3つの研究分野の融合です。目標達成のために、まずは2分野交流から始めていきましょう」と伊藤教授。当事業へのICReDDの意気込みを語りました。

今回のミーティングを通して、事業の重要性や本学がすべきことについて再確認し、PI同士が一丸となって目標達成に向かえるよう、互いの研究内容を理解し合うことができたのではないのでしょうか。第1回ICReDD国際シンポジウムは、来年の3月頃を予定しています。

（総務企画部広報課）

【第1回ICReDDミーティング（学内関係者限定）】

日時：12月4日（火）10:00～17:45

会場：医学部フラテホール

プログラム：

1. 趣旨説明

拠点長 前田 理（理学研究院 教授）／副拠点長 伊藤 肇（工学研究院 教授）

2. 各分野のPIより自身の研究概要発表

〈計算科学〉

「化学反応ルートマップの構築、解析、および、利用」

拠点長 前田 理（理学研究院 教授）

「第一原理反応ダイナミクスと触媒・光反応における実験との協働」

武次徹也（理学研究院 教授）

〈情報科学〉

「化学反応インフォマティクスと機械学習」

瀧川一学（情報科学研究科 准教授）

「実世界非構造データからの超高速データマイニング」

有村博紀（情報科学研究科 教授）

「化学反応ネットワークの経路探索，ダイナミクスおよび分子データ科学へ」

小松崎民樹（電子科学研究所 教授）

〈実験科学〉

「新しい反応と新しい材料の開発：計算科学と情報科学と実験科学のインタープレイを目指して」

副拠点長 伊藤 肇（工学研究院 教授）

「ひも状分子で切り拓く化学反応」

猪熊泰英（工学研究院 准教授）

「不斉合成触媒の開発と理論計算の課題」

澤村正也（理学研究院 教授）

「理論計算を基盤とした強発光分子材料の開発」

長谷川靖哉（工学研究院 教授）

「機能性ゲル創製における化学反応の課題と理論計算への期待」

龔 劍萍（先端生命科学研究院 教授）

「ICReDDにおけるサイエンス・インフォマティクスと医学・医療の接点」

田中伸哉（医学研究院 教授）

3. 総括

拠点長 前田 理（理学研究院 教授）



拠点長の前田教授



副拠点長の伊藤教授



参加者全員で

「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業で 出張講義を実施

10月より本格的に始動した、今年度の「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称“ACADEMIC FANTASISTA”。11月は、7名の参加教員が高校で出張講義を実施しました。

(総務企画部広報課)

画像診断の実際と最新の研究

画像診断医の工藤與亮診療教授。磁石と電波を用いるMRIの仕組みや、画像診断に不可欠な造影剤の開発について解説しました。「医者は一生涯勉強。常に新しい知識を入れていかないと仕事にならないんです」というメッセージが印象的でした。

- 日 時：11月1日（木）13:25-15:15
- 会 場：札幌日本大学高等学校
- 参加生徒：1年生49名
- 参加教員：工藤 與亮（北海道大学病院 診療教授）



質問に来てくれた生徒と一緒に

環境に応じたカラダづくりとストレッチング

トレーナーとしてオリンピックの選手村でも活躍している、寒川美奈准教授。部活動によってストレッチングの方法が違うのはなぜか等、生徒たちにとって身近な話が盛りだくさん。一緒にカラダを動かして、活気溢れる講義となりました。

- 日 時：11月7日（水）13:20-15:05（45分×2回）
- 会 場：北海道札幌国際情報高等学校
- 参加生徒：2年生55名（前半：27名、後半：28名）
- 参加教員：寒川 美奈（保健科学研究院 准教授）



実践的な講義は生徒にも好評

胎児期の環境が将来の健康に影響している？

湊屋街子特任講師は、長期にわたり妊婦とその子どもの追跡調査を実施する、「北海道スタディ」という取り組みに携わっています。「目の前のひとを救うだけでなく、集めたデータと向き合うことで大勢のひとの役に立てたら」と話していました。

- 日 時：11月7日（水）13:20-15:05（45分×2回）
- 会 場：北海道札幌国際情報高等学校
- 参加生徒：2年生40名（前半：20名、後半：20名）
- 参加教員：湊屋 街子（環境健康科学研究教育センター 特任講師）



専門用語も分かりやすく解説

がん細胞の動きを止めろ！

がん細胞の増殖により命を落とす人は少ないですが、増殖したがん細胞が血管を通して動きだすと、死亡リスクは一気に高まります。物理学のバックボーンを持ちながら、がん研究に挑む芳賀 永教授。がん細胞の「動きを止める」ことについて解説しました。生徒からは、「先生の常に新しいことにチャレンジする姿勢が印象的でした」などの感想がありました。

■日 時：11月13日（火）15:45-17:30

■会 場：北海道小樽潮陵高等学校

■参加生徒：1, 2年生42名

■参加教員：芳賀 永（先端生命科学研究院 教授）



最新の研究を交えながら説明

はやぶさ2が明らかにする宇宙と生命の謎

小惑星探査機はやぶさ2のプロジェクトメンバーとして活躍している、塚本尚義教授。宇宙についてはじめて触れる生徒たちにも分かりやすい言葉で説明しました。生徒からは、「宇宙への興味がぐっと湧き、これからの宇宙開発がどうなっていくのかとても気になった」といった声がありました。

■日 時：11月15日（木）15:50-17:20

■会 場：北海道札幌北高等学校

■参加生徒：1, 2年生70名

■参加教員：塚本 尚義（理学研究院 教授）



生徒たちから沢山の質問が

昆虫が超高速の運動を生みだすカラクリ

昆虫の中には、神経や筋肉の働きに加え、骨格の構造を利用して高速の運動を実現しているものがあります。青沼仁志准教授は、そうした昆虫の素早い動きを研究し、人工物の設計や制御に役立てようとしています。CTによる昆虫の内部構造の映像や、模型を用いて説明しました。

■日 時：11月16日（金）16:00-17:10

■会 場：北海道札幌東高等学校

■参加生徒：1, 2年生9名

■参加教員：青沼 仁志（電子科学研究所 准教授）



研究対象であるアギトアリの観察も

脳は治る！～神経疾患に対する再生医療の最前線～

脳卒中の治療が難しい原因の一つとして、傷ついた脳への治療法が確立していないことが挙げられます。川堀真人特任講師の研究テーマはズバリ、「一旦傷害された脳神経組織を再生させる治療法」。幹細胞を直接投与することで回復を促すという臨床研究について解説しました。

■日 時：11月20日（火）16:40-17:40

■会 場：北海道旭川東高等学校

■参加生徒：1, 2年生66名

■参加教員：川堀 真人（北海道大学病院 特任講師）



自身も旭川東高45期生です

「しなやかなタフポリマー」による革新的コンセプトカー “I toP” を一般公開

本学及び科学技術振興機構（JST）は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）の一つ「超薄膜化・強靱化『しなやかなタフポリマー』の実現」（伊藤耕三プログラム・マネージャー，以下「本プログラム」）で創出した新素材「しなやかなタフポリマー」を随所に活用した電気自動車（EV）の革新的コンセプトカー，“I toP（Iron to Polymer，アイトッブ）”を11月16日（金）～18日（日）の3日間，総合博物館前で一般公開しました。

この新素材は，自動車をはじめとす

る輸送機器の構造材や構成部品に用いることにより，軽量性・機能性・安全性・信頼性を飛躍的に向上させる可能性を有しています。今回製作したコンセプトカーは，これらの可能性を検証するために新素材をふんだんに活用し，その効果を具現化しています。新素材には，本プログラムに参画する北海道大学大学院先端生命科学研究院の龔 劍萍（ぐん ちえんぴん）教授及び黒川孝幸教授らが提唱してきたダブルネットワーク構造を取り入れた高強度・低燃費タイヤ（株式会社ブリヂストン開発）も含まれています。

11月17日（土）には，報道関係者を

対象とした式典・試乗会も開催されました。式典では，名和豊春総長から「このような革新的な取組が，我が国の科学技術の一層の発展に結びつくことを祈念する」と祝辞が述べられました。

“I toP”に試乗した報道関係者からは，その性能やデザインに対し，驚きの声が上がっていました。美しい秋のキャンパスを背景に，革新的な研究成果を味わっていただけた一日となりました。

（先端生命科学研究院，総務企画部広報課）



名和総長（中央），伊藤プログラム・マネージャー（右），龔教授（左）



I toP



中央ローンを周回するI toP

平成30年度国立大学法人運営費交付金の追加配分（本学関係分）の主要事項

平成30年度国立大学法人運営費交付金の追加配分（本学関係分）の主要事項は，次のとおりです。

事 項	摘 要
【機能強化経費】 ○全国共同利用・共同実施分 （中間評価による配分）	低温科学研究所 人獣共通感染症リサーチセンター

（財務部主計課）

2018年第2回新渡戸スクールメンターフォーラムを開催



新渡戸スクールメンター、新渡戸スクール修了生らと共に

新渡戸スクールメンターフォーラムを12月1日（土）にフロンティア応用科学研究棟にて開催しました。

新渡戸スクールでは、社会の多様な分野で活躍する方々に新渡戸スクールのメンターに就任いただき、スクール生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸スクール生が大学院修了後のキャリアを念頭に、自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じて、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として毎年開催しており、今年度は8月に続き、2回目の開催となりました。

フォーラムでは、第1部として、越直美大津市長（本学法学研究科修士課程修了）、3名のメンター、及び2名の特別講師による特別講演会を開催しました。今回は「専門を活かせ、専門を超えろ」をテーマとし、「自分の専門性」「専門分野を越えて活躍してきた経験」及び「キャリアプラン」についてお話しいただきました。スクール生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの講演に刺激を受け、熱

心に耳を傾けていました。

第2部は、スクール生が各メンターに自由に質問し対話を行う交流会として実施しました。スクール生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスをすることができました。

メンター講演会及び交流会を通して、スクール生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、

将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができました。

第2回新渡戸スクールメンターフォーラムは、3名のメンターのほか多くの方々のご協力を得て実施しました。ご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。

（学務部教育推進課）



メンター講演会における講演の様子（左：越直美大津市長、右：中原 拓メンター）



メンター交流会におけるスクール生との対話の様子
（左：和田義明メンター、右：ラワンカル・アビジット特別講師）

北海道大学総長奨励金給付証書及び北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行



全員での記念撮影



名和総長から給付証書授与

北海道大学総長奨励金給付証書及び北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を、11月5日（月）に学生交流ステーション大会議室で行いました。

授与式には名和豊春総長、長谷川晃高等教育推進機構長をはじめ、関 靖直理事・事務局長、留学生が所属する部局等の長、指導教員など関係者が出席し、北海道大学総長奨励金被給付留学生には給付証書、北海道大学私費外国人留学生特待プログラムに採用された留学生には採用証書が、名和総長から授与されました。留学生は緊張しながらも、誇らしげに証書を受け取っていました。

留学生一人ひとりに証書が手渡され

た後、名和総長から祝辞が述べられ、「この北海道大学で学び、人のことをおもんばかり、世界で活躍できる人間に成長して欲しい」との言葉を、留学生は真剣な眼差しを向け聞いていました。

北海道大学総長奨励金は、優秀な外国人留学生が自由に、そして安心して学ぶことができることを目的として平成18年度に開始された制度です。修士課程、博士後期課程（医学院、歯学院、獣医学院、国際感染症学院及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、専門職学位課程等に入学を希望する者で、協定校等から推薦された学生を対象とし、受入れを行っています。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。博士後期課程（医学院、歯学院、獣医学院、国際感染症学院及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、博士課程教育リーディングプログラムに選抜された修士課程と博士後期課程（獣医学院及び国際感染症学院については博士課程）に入学する私費外国人留学生を対象にしており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

（学務部学生支援課）

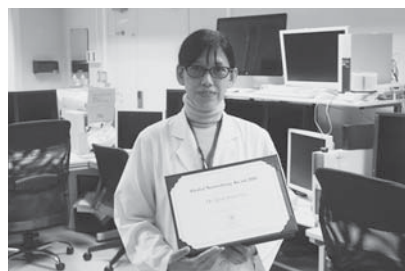
2018 WinGS Global Networking Award 受賞者が決定

WinGS (Women in Global Science) Global Networking Award（グローバルネットワーキング賞）は、本学が文部科学省「研究大学強化促進事業」の支援対象機関となったことを受け平成25年度より実施しており、優秀な女性教員（准教授以下、特任含む）を表彰し、副賞として国際学会への参加など国際的ネットワーク形成を促進するための費用を補助するものです。

今年度は、前後期合わせて5名の応募があり、学内審査委員会による審査の結果、農学研究院の森本淳子准教

授、北海道大学病院のKhin Khin Tha 特任講師が受賞しました。

（人材育成本部）



KhinKhinTha特任講師



森本准教授

人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 第36回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、10月31日（水）に学術交流会館にて本年度第2回「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本会は、企業と若手研究者（DC，PD）との直接情報交換会であり、企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき、若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会&緑の会」は通算36回目の開催となり、若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し、10部局からDC51名が参加、また、平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で、他大学から若手研究者1名（東北大学）も参加しました。企業からは、総勢42名（各種業界17社（40名）、オブザーバ

企業1社）にご参加いただきました。

本会では、冒頭の人材育成本部長の笠原正典理事・副学長による開会挨拶、赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後、参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ、その後、若手研究者の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。さらには、この「赤い糸会&緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方が今回の企業説明会に4名参加し、後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからも、「アクティブで優秀な学生に会える企画であり、是非継続的に参加させていただきたい」「運営も良く素晴らしいイベントです（色々な博士イベントに出ていますが、一番です）」との声をいただくことができました。また参加した若手研究者からは、「実際に話を

して初めてわかった点があった。企業の方からアドバイスをいただいた」「時間が短く感じるほど濃い時間でした」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では上記の活動に加えて、企業事業所視察、Advanced COSA, J-window, キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力して参ります。また、コンソーシアム結成により、東北大学や名古屋大学等が運営している、より多くの洗練されたプログラムも博士達に活用されています。

興味のある方は人材育成本部のホームページを是非ご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



笠原人材育成本部長の開会挨拶



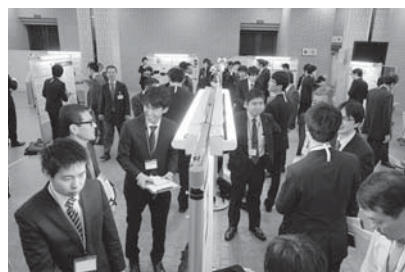
樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換

衛生管理者連絡会を開催

10月4日（木）、事務局大会議室において、日頃から部局での安全衛生業務に従事している衛生管理者等の教職員を対象として、衛生管理者連絡会を開催しました。

はじめに、川上貴教安全衛生本部教授から、今年各地で発生した事故等のニュースを通じて、事故発生時に問われる大学側の4つの責任について、具体的な説明がありました。また、部局における衛生管理者業務の位置付けや役割について説明したうえで、業務にあたっては組織的な役割の意識が重要であることなど、本学で安全衛生活動を円滑に進めるために部局担当者が心がけて欲しいことを示しました。

その後、平井克美安全衛生本部特定専門職から、安全衛生本部衛生管理者による職場巡視で指摘している具体的な内容及び件数を部局ごとに紹介する

とともに、今後の改善にあたり参考となる事例を写真で示しつつ説明しました。

最後に、現在の業務内容や苦慮していること、安全衛生本部への要望など、種々出された意見をもとに活発な意見交換を行いました。

連絡会終了後のアンケートからは、「ニュース映像など具体的な事例紹介があり分かりやすかった」「管理者側

の責任が理解できた」「巡視の指摘事項に対する改善は各部局共通の悩みであることが分かった」などの声が寄せられました。

本連絡会は、衛生管理者をはじめ、安全衛生業務に携わっている方々の業務に役立てていただくため、次年度以降も定期的に開催する予定です。

（安全衛生本部）



連絡会の様子



講演する川上教授（右）・平井特定専門職（左）

「SAPPOROおみやげパワーアップフェア in 北大」を開催

11月28日（水）、学術交流会館において、SAPPOROおみやげパワーアップフェアが開催され、本学の留学生等72名が札幌市内企業の新たなお土産品を評価しました。

これは、昨年度に引き続き札幌市が取り組む外国人観光客向けお土産品開発支援事業の一環として実施され、本学と北洋銀行も支援する産官学連携の取り組みです。

参加した留学生が、札幌の新たなお土産品を見て食べて楽しむだけでなく、それぞれの母国の目線で、味やパッケージデザインの好みなどについて出展企業と意見交換し、さらにアンケート回答による商品評価を行ったことで、外国人に好まれる商品開発を目

指す地元企業への後押しとなりました。

今後も本学の国際的な環境を活用し、産学連携及び地域との協働を推進していきます。

（研究推進部産学連携課）



留学生が札幌産「さとほろいちご」のかりんとうの味を評価



水産加工お土産品のパッケージについて意見交換する留学生

シンポジウム「北海道の魚類養殖－新たな可能性を探る－」を開催

産学・地域協働推進機構は、11月6日（火）、フロンティア応用科学研究棟鈴木章ホールにおいて、北海道立総合研究機構が運営する魚類養殖研究会との連携による共催シンポジウム「北海道の魚類養殖－新たな可能性を探る－」を開催しました。

本シンポジウムでは「北海道の魚類養殖」と題して、「養殖」をテーマに水産研究・教育機構水産大学山本義久准教授の基調講演をはじめ、他5名の講師に講演いただきました。当日は、研究機関や食品関連企業、行政関係者に加え、一般の方も含めた110名の方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

なお、当日の講演については、食科学プラットフォームwebサイト（<https://www.mcip.hokudai.ac.jp/foodscience/>）に開催報告を公開していますので、ご

覧ください。

産学・地域協働推進機構では、“食（生産、加工、流通）”を重点テーマとした産学官の研究関係者が自由闊達に意見交換できる場としてセミナーやシンポジウムを開催しています。当機構は、これら活動を通して安全・安心で高品質な「食」に恵まれた北海道において「農産」「水産」「食品加工」分

野のプロジェクト創成を目的とした、産学官のプラットフォームとして機能することを目指しています。

ご興味のある学内研究者は、お気軽に、産学推進本部窓口（jigyo@mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

（産学・地域協働推進機構）



パネルディスカッションの様子

平成30年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部は、10月24日（水）、事務局大会議室において、平成30年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催しました。

今年4月に同本部が設置されたことにより、各部局等に委嘱されていた環境負荷低減推進員及び同補佐がサステイナブルキャンパス推進員及び同補佐へと変更されたため、本会議はサステイナブルキャンパス推進員会議として開催する初めての会議となり、当日は56名の参加がありました。

各部局等のサステイナブルキャンパス推進員等には、省エネ・省資源だけ

でなく、生態環境の保全、キャンパスマスタープラン実現、施設環境マネジメント、歴史的資産の活用など、施設・環境に関する様々な活動を担うことが求められています。

本会議では、夏季の節電結果報告、省エネルギー対策や実験施設の省エネに関する報告会開催の紹介等を行いました。その後の意見交換では、プラスチックごみの削減やエネルギー管理システムの利用方法等について、意見が交わされました。

（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）



省エネ対策についての紹介の様子

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 量子医理工学グローバルステーション、人獣共通感染症グローバルステーションが外部評価でS評価を獲得



セレモニー出席者による記念撮影
前列左から・名和総長、小川委員長、倉田委員長、笠原理事・副学長
後列左から・白土博樹量子GS長、鈴木定彦人獣共通感染症リサーチセンター長

国際連携研究教育局 (GI-CoRE)*では、グローバルステーション (GS) ごとに、設置から5年以内に自己点検及び外部評価を実施することとしています。外部評価においては、学外有識者による外部評価委員会 (日本人1名+外国人2名の計3名の委員により構成) を設置しています。

量子医理工学グローバルステーション (以下、量子GS) 及び人獣共通感染症グローバルステーション (以下、人獣GS) は、今年度が設置後5年目であることから、自己点検評価を実施し、また外部評価委員が各GSの施設見学、教員へのヒアリングを含む実地調査を実施しました。外部評価の結果、両GSとも総合評価において5段階評価基準において最高レベルであるS評価を獲得しました。

本学事務局において10月30日 (火)

に開催した「外部評価報告セレモニー」には、両GSの外部評価委員会を代表し、小川和彦量子GS外部評価委員長 (大阪大学大学院医学系研究科・教授)、倉田 毅人獣GS外部評価委員長 (国際医療福祉大学塩谷病院・教授) が出席し、名和豊春総長 (GI-CoRE 長) に評価報告書を提出しました。名和総長からは、両外部評価委員会の多大なる尽力と忌憚らない意見に感謝する旨、謝辞が述べられました。

同セレモニーの後、両委員長にはGI-CoRE運営委員会に出席いただき、外部評価委員会が専門的見地からまとめた報告書に関する説明及び今後の活動に向けた有意義な助言をいただきました。

両GSは、今回の外部評価結果、及び評価委員からの意見を踏まえ、さらなる国際連携研究・教育を推進すると

ともに、GI-CoREにおける先進的な取組を関連部局に定着させ、持続的な活動を続けていく予定です。

*国際連携研究教育局 (GI-CoRE)

本学の強みや特色を活かした国際連携研究・教育の推進と部局が独自に進める国際連携研究・教育の支援を目的として、世界トップレベルの教員を国内外及び学内から結集した総長直轄の教員組織。平成26年度の開設以降、現在までに、量子医理工学 (H26開設)、人獣共通感染症 (同)、食水土資源 (H27開設)、ソフトマター (H28開設)、ビッグデータ・サイバーセキュリティ (同)、北極域研究 (同) の6つのグローバルステーション (研究拠点) が設置され、それぞれの分野で国際連携研究・教育を推進している。

(国際連携研究教育局)



小川委員長 (左) から報告書を受け取る名和総長 (右)



倉田委員長 (左) から報告書を受け取る名和総長 (右)

■ 部局ニュース

学芸員リカレント教育プログラム（學藝リカプロ） 平成30年度「大学における文化芸術推進事業」報告会に参加

11月8日（木）、東京都品川区の「TOC GOTANDA MESSE」において、文化庁の助成金「大学における文化芸術推進事業」に採択された各大学による事業報告会が開催されました。平成30年度からこの助成金を受け、文学研究科が取り組んでいる「学芸員リカレント教育プログラム」（通称「學藝リカプロ」）も、初年度の活動を報告し、他大学や文化庁の担当者との情報交換を行いました。

今回の報告会に参加したのは、国公立の22大学、合計23のプロジェクトです。報告会の前半は、プロジェクトごとにポスターを掲示し、参加者との質疑応答を随時行うというポスターセッション形式でした。本学のブースは常にたくさんの方で賑わい、2時間で約50名の方に學藝リカプロの取り組みについて説明することができました。そのなかでも特に、「くみたて和室×煎茶のコラボレーションイベント」や、TERRACEと連携して実施した「企画展を装飾するギャラリートークと舞台芸術－アートが紡ぐ古代の物語－」に興味を持ってくださる方が多かったようです。

報告会の後半は、参加者による投票

で選ばれた2校が個別のプレゼンテーションを行うという形式でした。残念ながら本学は上位2校に選ばれませんが、最後の懇親会も含めて、次年度以降の活動につなげていくための様々なヒントを得ることができました。参加した學藝リカプロ代表の佐々木亨教授（文学研究科）は、「すでにミュージアムで勤務している学芸員を対象として、一貫した学芸員教育を目

指しているということで、本事業の位置付けをアピールできたのでは」と総括しています。自分たちのプロジェクトの意義や特色、そして全国的な位置付けを再確認し、次年度以降のプログラムを準備するための出発点となる有意義な報告会でした。

（文学研究科）



他大学の取り組みから学びます



一対一で丁寧に対応することも



北大のポスターブースはこちら



熱心に耳を傾けてくださる来場者

農学研究院ビークルロボティクス研究室の野口伸教授が 人気小説シリーズ及びドラマへ協力

人気小説シリーズの4作目「下町ロケット ヤタガラス」(原作：池井戸潤、小学館)の執筆に、農学研究院の野口伸教授が協力しています。TBS系列全国ネットにて放送していたドラマでも無人トラクターの監修をしました。

「作者の池井戸潤さんに最初にお会いしたのは2015年10月。エッセイの取材で私の研究室を訪れたときでした。厳しい状況におかれている“日本の農業”にロボット技術が有効だと関心を持っていただき、とても嬉しかったです。その時はまさか小説になるとは思っていませんでしたが・・・。下町ロケットは、農学関係者だけではなく、多くの方々に私の研究を知っていただくきっかけとなりました」と野口教授。

無人農業ロボット研究の世界的な第一人者である野口教授は、所属しているビークルロボティクス研究室でトラクター、田植機、コンバインなど農機をロボット化する研究に加え、空から農地を観測するドローン、水田で薬剤散布するロボットボートなどの開発を行っています。また、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「次世代農林水産業創造技術」のプログラムディレクターを務めています。

野口教授が農業ロボット第一号を開発したのは1991年。当時は大学院生とともに、廃材から集めた部品で製作し、位置計測システムも自作でした。農地を走るだけのシンプルなもので、100メートル走行すると50センチほどの誤差が出たといいます。その後研究を重ね、現在では単純な作業もできるようになり、日本版GPSである準天頂衛星「みちびき」の活用によって、数キロ走行しても誤差は5センチ以下になりました。

研究室から歩いてすぐのところに、約35haの広さをもつ「第一農場」があり、日々実地でプログラム動作を確認できることも、農学研究院の強みです。

ついに今年(2018年)、無人運転ト

ラクターが各農機メーカーから続々商品化されました。パソコンで作業内容やルートを設定し、手元のタブレット型端末で操作します。位置や姿勢を測定するセンサに加え、安全のため障害物を検知するセンサも搭載されており、運転中、人や物が近づくとアラートが鳴り停止します。小説やドラマの世界が、すでに現実のものとなっているのです。

「今年は“農業ロボット元年”といわれています。無人運転トラクターが販売され、“準天頂衛星みちびき”の本格運用がスタートしました。国も農林水産省を中心に“スマート農業”に力を入れていて多くの事業を展開しています。下町ロケットが出たタイミングとリアルな世界が一致している点でも、多くの行政、民間、農家の方々に関心を寄せていただいています」と野口教授。また、今後については「より安全性を高め、コストを下げ、そしてもっともっと小型化していきたいですね。将来的には例えば棚田のような本場に小さな畑にも使える農業ロボットを開発するのが夢です。先端技術と昔ながらの文化が同時に見られるのは、日本らしい風景といえるかもしれませんね。ロボット掃除機レベルのロボット農機を目指しています」と意欲をみせました。



インタビューに答える野口教授



無人運転トラクターと野口教授

最後にメッセージをいただきました。

「下町ロケットに描かれているなかで、特に重要だと感じていることが3つあります。一つ目は“人としてどう生きるべきか”。他人に寛容であり、一生懸命目標に向かって突き進む。そういったフィロソフィーは私自身も非常に共感していて、若い人達に伝えていきたいと考えています。二つ目は“技術者の視点”。私も実学をやっている研究者として、やはり使う人のことを考えてものづくりを進めていくことが重要だと思っています。三つ目は社会課題を解決する上で“技術”がとても大切だということ。日本の農業のおかれている状況はとても厳しいものですが、その課題を解決していかなければと強く思っています。そういったことを取り上げている“下町ロケット”を皆さんもぜひ読んでみてください。」

野口教授はこれからも高齢化や担い手不足が深刻化する「日本の農業」の課題解決に挑み、世界の食料不足改善に貢献していきます。

参考：農学研究院 ビークルロボティクス研究室

<http://vebots.bpe.agr.hokudai.ac.jp/>

(農学研究院)



田んぼを無人で走るトラクター



自ら倉庫から出て作業して戻る自動運転トラクター

農学研究院で第11回Sapporo Alumni Lecturesを開催

農学研究院は、11月22日（木）に札幌農学同窓会とともに、学生を対象とした第11回Sapporo Alumni Lecturesを開催しました。本講演会は、社会で活躍している農学部卒業生を招いて学生に講話していただくもので、農学部を卒業してから今日までの様々な経験、そしてそこから得た人生観を語ってもらい、学生の今後の学びや将来の目標を考える機会にしてもらうことを目的としています。

本年は国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所・組織材質研究室室長の安部 久氏及び大阪府立大学生命環境科学研究科准教授の山口 夕氏をお招きして開催しました。

横田 篤農学研究院長による挨拶の後、安部氏から「木材の樹種を調べること～標本から見た身近な木材からグローバル～」と題してご講演をいただきました。安部氏は、本学に入学後、農学部森林科学科の前身である林産学科に進級され、木材理学講座（現 樹木生物学研究室）で木材の細胞壁形成に関する仕事に取り組み、学位取得後、森林総合研究所に入所されました。途中、スウェーデン農業科学大学に留学された他、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）に3年半の出向を経験され、これらの海外での仕事は非常に楽しい経験であったとお話されました。森林総合研究所での業務として、主に木材標本の収集及び管理と樹種の識別に関わる研究についてご紹介いただきました。それに関連して、現在国内で流通する木材の呼称には誤解を招くようなものがあり、正しく評価されるためにも学名を併記するような表記法が推奨されるべきであるとお話されました。また、森林総合研究所でダイバーシティ推進業務に関わってこられた立場から、自分と他者の違いを知り、相手を変えるのではなく受け入

れるための工夫や心構えが大事であるとお話されました。質疑応答の時間では学生たちに向けて、ぜひ研究者を目指して博士後期課程への進学を選んでもらいたいということ、また、本学出身者の長所であるチームワークの良さを大事にしていてもらいたいというメッセージをいただきました。

続いて山口氏から「北大で植物科学と出会って」と題してご講演をいただきました。山口氏は、農学部生物資源科学科の植物ウイルス病学・菌学研究室に分属後、公務員の就職活動に悪戦苦闘した結果、卒業年度の3月に募集を行っていた奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス科に進学されることになりました。元々研究へのモチベーションは高くなく、同大学における所属研究室も第一希望のものではなかったものの、同研究室において、自らの考えが結果に反映されるという研究の楽しさに目覚め、博士後期課程に進学した後博士号を取得されました。この後同大学の助手となりますが、海外志向が強まったことと、研究室の教授の定年退職に伴う研究室閉鎖により、研究の場をワシントン州立大学に移すことになりました。同大学では6年間研究を行い、植物の病傷害応答におけるペプチドホルモンの機能を世界に先駆けて明らかにされました。これは、同分野の発展の端緒となる大きな成果です。その後、本学農学研究院作物生理学研究室の特任助教及び助教と

して作物に関する研究を行い、それまで行ってきた基礎研究の作物への応用の難しさを実感した後、大阪府立大学の准教授に就任され、現在に至ります。現在は、食の安全・安心を担う人材の育成や植物工場での企業との共同研究など、多岐に渡る研究に携わられています。育児と仕事を両立させ、忙しくも充実した日々を過ごされています。思い通りにいかないことや予期せぬことがあってもめげずに頑張ることが重要である、ということを端的に示すご講演でした。

講演会には、学生と教員を合わせ、大講堂を埋める118名が参加しました。質問も多く寄せられ、講師お二人からそれぞれ丁寧に回答いただき、参加者は理解を深めていました。最後に札幌農学同窓会の松井博和理事長による閉会の挨拶で講演会は幕を閉じました。

今回のご講演は、博士号取得後公設の研究所に就職し、留学や出向によって海外を含む様々なフィールドで活躍するケースと、女性研究者が独立独歩で国際的に活躍するケースのそれぞれ良い具体例として、学生にとって大変参考になるもので、グローバル化や男女共同参画という視点を持って就職を考える良い機会となりました。今回、貴重なお話をいただいた安部氏、山口氏に改めて感謝申し上げます。

（農学研究院）



講演する安部氏



講演する山口氏

生命科学院で「第6回生命科学国際シンポジウム」を開催



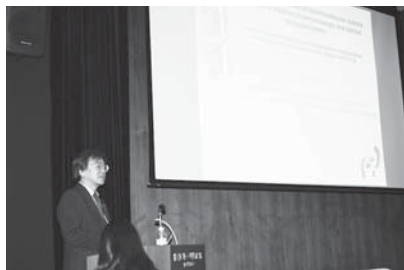
シンポジウム参加者の集合写真

11月19日（月）、学術交流会館において、“The 6th International Life-Science Symposium（第6回生命科学国際シンポジウム）”を開催しました。本シンポジウムは、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムとして生命科学院が実施する「次世代の生命科学グローバルリーダー養成プログラム International Graduate Program, Training Program for Global Leaders in Life Science (IGP-GLLS)」と国際連携研究教育局（GI-CoRE）が共催する国際シンポジウムで、生命科学院の学生を中心に企画・運営を行いました。

昨年と同様に本年度も、留学生を含む若手研究者が自らの研究をトップレベルに発展させる場として、世界で通用するコミュニケーション・プレゼンテーションスキルの向上と、留学生を含む若手研究者同士の情報交換の2点を目的に開催しました。留学生50名を含む130名が参加し、口頭発表及びポ

スター発表を通して、終始活発な意見交換が行われました。

招待講演では、大阪大学大学院生命機能研究科特任教授の難波啓一先生をお招きし、高分解能な構造解析と動態解析により明らかにされた、生体がもつ巨大分子複合体の動作メカニズムについて、ご講演いただきました。また、ご自身の豊富な経験を踏まえて、若手研究者が今後、科学者として国際的に活躍するための助言をいただきました。



難波先生による講演

シンポジウム終了後は、本年度10月入学のIGP-GLLS留学生20名の歓迎会と優秀口頭発表賞の授賞式を兼ねた懇親会を行いました。本年度は、22名の発表者の中からNour A. K. Shobakiさん、渡辺 爽さん、Mohamed Shehataさん、山村芳央さんの4名に優秀口頭発表賞が贈られました。

本シンポジウムは、北海道大学という世界中から若手研究者が集まる環境を利用してお互いに活発な討論を行うことで、参加した留学生と日本人学生が将来的に国際的な場で活躍するための一助となり、将来のますますの発展を手助けするものになったと思います。

開催にあたりご指導・ご協力をいただいた先生方や準備・運営にご支援・ご協力いただいたスタッフ、留学生、学生の方々に深くお礼申し上げます。

（生命科学院）



ポスター発表の様子

第1回（平成30年度）法学研究科アドバイザー会議を開催

11月12日（月）、東京都千代田区の学士会館において、「第1回法学研究科アドバイザー会議」を開催しました。

本会議は「北海道大学法科大学院アドバイザーグループ会議」の発展的解消を経て、法曹界、産業界、教育界等各界において現在中核を成して活躍されている法学部卒業生を構成員とし、法学研究科全体及び法学部に対して助言をいただくことを目的に、新たに「北海道大学法学研究科アドバイザー会議」として設置されたものです。

第1回となる今回は、5名の同会議

構成員と、法学研究科から加藤智章法学研究科長、池田清治評議員及び佐々木雅寿法科大学院長が出席しました。

会議では、加藤法学研究科長から法学研究科の近況が報告された後、法学研究科における教育、研究の今後につ

いて熱の入った貴重な意見交換及び提言がなされ、盛会のうちに終了しました。

（法学研究科・法学部）



会議の様子



医理工学院で第2回学生研究発表会及び第2回企業との交流会を開催

医理工学院は、11月12日（月）に医学部学友会館フラテ2F特別会議室において、第2回学生研究発表会及び第2回企業との交流会を開催しました。

昨年同様、学生が日々の研究成果を発表する場を設け、医理工学院の教育活動や研究成果等を他方面に知っていただくことを趣旨とし、一般社団法人日本経済団体連合会の倫理憲章を遵守しながら、学生38名、教員23名、企業13社23名の計84名が集い盛大に開催しました。

学生には異なる系の指導教員が2名ずつ対応し、医理工学院の研究領域である医学・理学・工学の融合領域における研究発表を行うことができるよう、精到に指導しました。

医理工学院の教育目的である「最先

端理工学を活かした、新たな医療技術や医療機器を開発できる研究者や技術者を育てる」「高精度放射線治療や粒子線治療を担う医学物理士を育成する」の実現に向け、更なる一步を踏み出すことができました。

研究発表のみならず、会場設営、当日受付、司会進行等にも携わった各学生からは、「研究以外の面においても研究者・技術者として今後に役立つ知識を学ぶ機会となった」、また、医理工学院教員各々からは、「有意義であった」との意見がありました。

さらに、ご参加いただいた企業の方々からも「昨年度に続き学生の堂々たる発表には目を見張るものがありました。それを支える先生方の日頃の教への賜物と思います」との感想をいた

だき、大きな成果を得ることができました。

来年度以降も引き続き開催し、医理工学院の教育活動の発展に寄与する機会となるよう、更なる充実を目指していきます。

（医理工学院）



学生研究発表会の様子

環境健康科学研究教育センター，人獣共通感染症リサーチセンターが第3回世界保健機関西太平洋地域協力センターフォーラムに参加

11月22日（木）・23日（金）に，第3回西太平洋地域WHO Collaborating Centre（WHOCC；WHO研究協力センター）フォーラムが開催されました。今回は会場を地域事務局（WPRO：Western Pacific Regional Office）のあるフィリピン・マニラ市から初めてベトナム・ホーチミン市に移し，西太平洋地域に所属する192のWHOCCの中から140 WHOCC，240人が参加しました。

本フォーラムでは，2日間にわたって「Promote health - keep the world safe - serve the vulnerable」をキーメッセージとして，WHO，WHOCC，WHOCC間の協力強化のもとにWPRO地域加盟国にどう協力・貢献していくかを議論しました。本学からは人獣共通感染症リサーチセンター（WHOCC for Zoonosis Control）の喜田 宏統括（WHOCC Head），澤 洋文副センター長，磯田典和特任准教授の3名，環境健康科学研究教育センター（WHOCC for Environmental Health and Prevention of Chemical Hazards）の岸 玲子特別招へい教授（WHOCC Head），荒木敦子准教授，湊屋街子特任講師の3名が参加しました。

フォーラムでは，マーガレット・チャン前WHO事務局長によるキーノートスピーチに加え，加盟国のニーズ，WHOCCによる活動の成功事例紹介，及び類似の活動を実施するWHOCCグループに分かれての連携推進に向けた討論などが実施されました。また，

今回初めての試みとして，ホーチミン市内の大学，小児病院等6か所を訪問し，加盟国としてのベトナムの実態とニーズを視察する機会も設けられました。ポスターセッションでは，各WHOCCの活動が紹介され，人獣共通感染症リサーチセンターがベストポスター賞に輝きました。今後の活動に向けた連携関係を築き，有益な情報を得ることができた2日間でした。

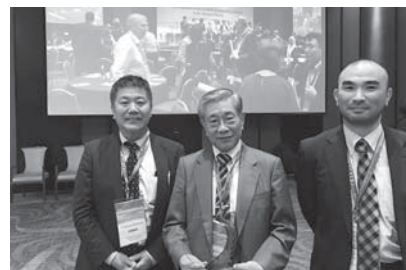
なお，本会議の前日11月21日（水）には，同会場にて，国立国際医療研究センターグローバルヘルス人材戦略センターが主催する「WHO協力セン

ターとWHOの人的協力強化のためのワークショップ」が開催され，荒木敦子准教授が参加しました。WHO等国际機関における人材募集状況や，WHOへの就職やインターン応募する上でのノウハウの紹介，WHOCCとして人的協力における課題やその解決策を検討する機会となりました。本学からの国際人材の輩出に向けて，WHOCCの活動が活用されることも，WHOCCのミッションであると考えています。

（環境健康科学研究教育センター）



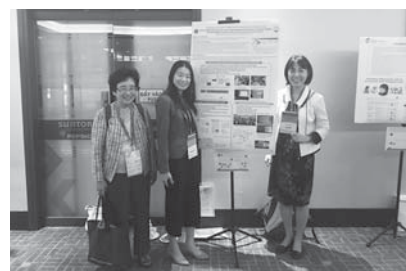
右から人獣共通感染症リサーチセンターの澤副センター長・喜田統括・磯田特任准教授，環境健康科学研究教育センターの荒木准教授・岸特別招へい教授・湊屋特任講師



ベストポスター賞を受賞した人獣共通感染症リサーチセンター



WHO WPRO担当官Rokho Kim博士と（右から2番目）



WHOCC Environmental Health and Prevention of Chemical Hazardsポスターの前で

平成30年度低温科学研究所公開講座 「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了

低温科学研究所では、10月1日（月）から11月12日（月）までの毎週月曜日、全6回にわたって、公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」を実施しました。

本講座は、「低温」をキーワードに、植物、海、氷、雪、宇宙まで広大

な低温科学の魅力について各講師が語りました。

実施にあたっては10代から80代までの幅広い層の方々63名にご参加いただき、また、各回とも受講者の方々からは多くの熱心な質問が寄せられ、盛況のうちに終了しました。来年度以降も

多くの皆様楽しんでいただけるよう、より充実した公開講座を目指していきたいと思えます。

（低温科学研究所）

講義題目・講師

第1回 10月1日（月）

潮の満ち引きは、海洋の循環に深く影響している 中村 知裕 講師

第2回 10月15日（月）

実験室で理解する「うちゅうじん」の化学 大場 康弘 助教

第3回 10月22日（月）

宇宙から見た北極 江淵 直人 教授

第4回 10月29日（月）

アイスコアと地球温暖化 飯塚 芳徳 助教

第5回 11月5日（月）

カムチャツカの森と環境：極北の植物たちの生きる道 原 登志彦 教授

第6回 11月12日（月）

寒冷地の空と海と森をつなぐ大気の塵（ちり） 宮崎 雄三 助教



講義風景（第2回）



講義風景（第3回）

メディア・コミュニケーション研究院公開講座 「中国文学の中の食—美食をめぐる謎—」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成30年度公開講座「中国文学の中の食—美食をめぐる謎—（講師 長井裕子 特任教授）」を、10月24日（水）から11月7日（水）まで毎週水曜日、全3回にわたり実施しました。

本講座では、中国文学に描かれた食—鮓、肉、麵を俎上に載せ、その背景に広がる文化の流動の軌跡をたどりながら、中国文化の多面的な諸相を解き明かしていくとともに、日本の食文化との関わりについても言及しました。「食」という身近な題材ゆえに受講生の関心は高く、日本との違いについ

て、また、異なる視点から検討するとどうなのかなど、様々な質問が寄せられました。

最終日には受講生が修了証書を受け

取り、本講座は盛況のうちに無事に終了しました。

（メディア・コミュニケーション研究院）



受講風景



修了証書の授与

経済学部で札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部では、札幌国税局長の片桐聡氏による特別講演会を11月6日（火）に学術交流会館小講堂において開催しました。「日本の財政事情と税務行政」と題し、少子高齢化を背景に社会保障費の増加が国の財政赤字を拡大させており、消費税等の増税が不可避な状況になっていることについて説明され、さらに、消費税の現状と軽減税率の運用や、国税庁の適正・公平な課税に向けた税務行政とマイナンバー制度についても講演していただきました。

片桐氏は、財務省に入省され、財務省の主計局主査、ジェトロ・コペンハーゲン事務所長、大臣官房政策金融課長などを務められました。講演では、まず、国の一般会計と国と地方の長期累積債務の現状を示され、国の財政赤字がいかに深刻であるかを説明されました。税収が不足する一方で、社会保障費が増加し、国の債務は歯止めなく増加しています。家計の貯蓄率が減少している中で、将来的に国債の増発には限界があり、増税が不可避になっている状況を語られました。次に、増税する税目の一つとして消費税を取り上げ、世代間・世代内の公平性を確保する観点、社会保障の安定した財源を確保する観点から、社会保障の財源調達手段として消費税がふさわしいと述べられました。さらに、消費税の特徴、消費税増収分の使途、及び消費税の軽減税率制度について説明され

ました。最後に、国税庁の組織の機構、国税庁の適正公平な課税の推進、税務行政の将来像、マイナンバー制度についても説明していただきました。

講演は、日本の財政状況について問題の本質を的確に指摘されていたこともあり、参加された方にとって非常に理解しやすい内容でした。特に印象的であったのは、片桐氏がジェトロ・コペンハーゲン事務所長の経験から、デンマークと日本を比較し、日本財政の抱える本質的な問題を分りやすく説明された点でした。

講演会には約200人の出席者があり、経済学部の学生と大学院生ばかりでなく、他学部の学生や一般の方の参加もありました。当日の参加者アンケートでは、参加者の多くから片桐氏の講演が非常に有益であった旨の回答がありました。

2019年の10月には消費税の税率は8%から10%に引き上げられ、このとき軽減税率が適用される予定です。なぜ消費税率を引き上げなければならない

のか、消費税率を引き上げ軽減税率が用いられると何が起きるのか、このような疑問を私たちは持っています。我が国の問題は、政府と国民の間で一体感がなく、国民は政府の無駄な財政支出を批判し、消費税の増税に反対する人が多くいることです。しかし、政府と国民の間で一体感、信頼感がなければ、増税はできません。税に対する国民の信頼が納税を支え、社会を支えています。巨額の累積債務を抱えると同時に深刻な少子高齢化時代に直面していく日本において、税に対する信頼を確保し、国民一人ひとりが社会を支えているという自覚をもつ必要があります。このためには私たちが税に関心をもち、税の理解を通して社会に参加し、真剣に社会の在り方を考えることが重要です。このような講演会が、学生の皆さんに現実の問題に関心を抱かせ、真剣に日本の将来を考えてもらうよい機会になることを期待します。

（経済学研究院・経済学部）



講演する片桐氏



熱心に講演を聞く学生

経済学部で特別講演会を開催

経済学部では、財務省職員である松宮勤生氏による特別講演会を11月20日（火）に文系講義棟において開催しました。「税と経済」と題し、少子高齢化に併って生じている財政上の様々な問題についての説明や、医療費や年金など社会保障関連費の負担増の問題を解決するための具体的な政策について、分かりやすく解説していただきました。その中で、財政の健全化を目指

しつつも景気への影響を懸念する歴代内閣の様々なアイデアを概観していたのは興味深く、日本政府の政策について、海外のメディアの賛否両論を引用していたのも新鮮でした。

会場は200人以上の参加者で満席となり、講演終了後には活発な質疑応答が行われ、参加した学生の関心の高さを感じました。具体的なデータを用いてのお話は、学生にとって日頃の講義

内容の理解を深めるものでもあったと思います。このような講演会は、本学の学生が現実の経済・社会問題に興味を持ち、真剣に社会の在り方を考えるきっかけとなることから、経済学部では今後も開催を続けていきたいと考えています。

（経済学研究院・経済学部）



講演する松宮氏



講演会の様子



活発な質疑応答

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）では、11月23日（金・祝）、学術交流会館小講堂において、シンポジウム「地域金融機関の課題」を開催しました。なお、本シンポジウムは、日本計画行政学会北海道支部との共催で行われました。

シンポジウムでは、小樽商科大学大学院商学研究科教授の齋藤一朗氏、信金中央金庫地域・中小企業研究所所長の松崎英一氏、全国信用協同組合連合会理事長の内藤純一氏の3氏による講演が行われました。

「岐路に立つ金融機関のビジネスモデル－道内金融機関の財務構造から－」と題する齋藤氏の講演では、地方自治体等への融資が多いなどの道内金融機関の実態をデータをもとに示した上で、そのビジネスモデルを転換しなければならない時期にあることが説明されました。続いて松崎氏からは、「信用金庫による地域活性化への取り組み」と題して、信用金庫による各地

事例が紹介され、地域金融機関の課題が地域の課題に直結することが述べられました。そして内藤氏からは、「地域金融の現状と課題－系統中央金融機関の視点から－」と題して、地域金融を担う信用組合と、その中央金融機関としての全国信用協同組合連合会の役割が変化していること、そして現状への対応が図られていることをご紹介いただきました。

シンポジウムの後半では、公益財団法人はまなす財団理事長（本学名誉教授）の濱田康行氏がコメンテーターを務められ、金融論の専門家の立場から

前半の3氏の講演について評価コメントをいただきました。その後、経済学研究院の吉見 宏教授を司会として、濱田氏を含めた4氏に対する質疑応答が行われました。

シンポジウムには、学内外から150名の参加者がありました。連休中の祝日の開催にもかかわらず多数の参加者を得た会場は熱気にあふれ、質疑応答も活発に行われました。参加者からは、大変参考になった、わかりやすかったなどの感想が寄せられました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演会の様子



コメントと質疑応答の様子

第13回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催

第13回医学研究院連携研究センター研究成果発表会が、11月7日（水）、医学部中研究棟3階共通セミナー室で開催されました。

本センターは、長期的展望に基づいて堅実な知を追求する基盤的研究と、目標と期間を設定して先端的・革新的な研究開発を目指す戦略的研究の融合を図ることを目的として、平成18年4月1日に設置された学際的研究拠点です。これまで、大型研究プロジェクトを中心として多彩な研究活動が展開され、医学・生命科学と理工学の融合領域において、世界をリードする数多くの研究成果が得られています。

今回の研究成果発表会では、54名の

教職員・学生が参加し、センターの各分野から最新の情報が提供されました。また、特別講演として、名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学の榎本 篤准教授による「癌と線維化疾患の進展における微小環境（間質）の重要性と分子メカニズム」と題した講演

が行われました。参加者にとって、今後の取り組みに向けた新たな可能性が示唆された研究成果発表会となりました。

（医学研究院）



講演する榎本准教授



発表会の様子

工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、「工学部安全の日^{*}」関連行事として、毎年学内外から講師を招いて、安全衛生管理をテーマとした講演会を開催しています。

本年度は、工学研究院応用化学部門の島田敏宏教授を講師に迎え、11月16日（金）に、フロンティア応用科学研究棟2階鈴木章ホール（レクチャーホール）において開催しました。

講演会では、島田教授から、化学物質の取扱いについて、身に付けておくべき知識や研究・実験時における事故防止、過去の事例等について紹介があ

りました。

本講演会には、52名の教職員及び学生が参加し、参加者からは有益であった旨の感想が多く聞かれ、今後の安全教育の充実化に繋がる講演会となりました。

^{*}工学部安全の日

平成4年8月10日に工学部で発生した重大事故に鑑み、本学部における安全管理・安全教育体制の整備と安全意識の向上に資するために、制定された日。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演する島田教授



講演会の様子

工学研究院等安全衛生管理室で企業等見学研修会を実施

工学研究院等安全衛生管理室では、11月22日（木）に、エア・ウォーター・テクノサプライ株式会社（北広島市）において、企業等見学研修会を実施しました。

本研修会は、企業の工場等の見学を通して、企業等における安全衛生管理について理解を深め、工学研究院、情報科学研究科及び量子集積エレクトロニクス研究センター等における安全衛生管理に資することを目的としたものです。

本研修会では10名の参加者が、①安全教育、②安全管理、③消防訓練、④その他会社での安全に関する取り組みについて見学し、また、同社が今年度実施した防災訓練の記録映像を視聴しました。

参加者からは、学べき点が多々あり、今後の安全衛生管理の強化に繋がる旨の意見がありました。

工学研究院等安全衛生管理室では、来年度以降も企業等見学研修会を実施

していく予定です。

（工学研究院、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



参加者全員での集合写真

歯学研究院で「動物供養祭」を举行

歯学研究院では、11月29日（木）、研究院会議室において動物供養祭を執り行いました。供養祭は、過去1年間に歯学教育・研究のため実験に供された動物（ラット、マウス計1,620体）への感謝と追悼のために毎年実施して

おり、教職員、学生等の動物実験関係者約30人が参列しました。

供養祭では、最初に八若保孝歯学研究院院長から挨拶があり、次いで動物実験委員会委員長の船橋 誠教授から、歯学研究の進歩に尊い命を捧げてくだ

さった多数の実験動物の御霊の安らかなることを願う旨の「祭文」が捧げられ、最後に参列者全員により献花が行われました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



参列者に挨拶する八若研究院長



「祭文」を読み上げる船橋委員長



献花する参列者

薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を举行

薬学研究院・薬学部では、11月9日（金）に本研究院及び本学部の教育と研究のために供された実験動物の慰霊祭を臨床薬学講義室にて執り行い、教員、学生など約150名の関係者が参列しました。

慰霊祭では、動物実験委員会委員長の南 雅文教授より実験に供された動物に追悼の辞が述べられ、次いで参列者全員による黙祷及び献花が行われま

した。生命科学及び薬学の教育や研究の発展のために多大な貢献をした動物の諸霊への供養がしめやかに執り行わ

れました。

（薬学研究院・薬学部）



追悼の辞を述べる南委員長



献花する参列者

北海道大学病院で平成30年度地域連携懇話会を開催

北海道大学病院は、10月26日（金）、京王プラザホテル札幌において、平成30年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会では、療養型施設、急性期病院、在宅医療など、地域包括ケアにおいてそれぞれの役割を担う施設の医療従事者や、地域医療構想から見た慢性期医療について知見のある地域医療計画の研究者にご登壇いただきました。

第1部は「急性期病院における入退院支援の現状と課題」をテーマに、①「急性期病院における入退院支援のシステム」と題して、旭川医科大学病院看護部の金田豊子副看護部長、②「急性期病院における入退院支援の実践」と題して、手稲溪仁会病院患者サポートセンターの御家瀬真由看護師長、③「入退院支援における人材の育成」と題して、本院地域医療連携福祉センターの石岡明子看護師長から講演いただきました。引き続き第2部では、長崎大学医歯薬学総合研究科の松本武浩准教授から、「急性期病院における業務集中化と職種別役割分担の取組み～メディカルサポートセンターの価値と効果～」と題して基調講演をいただき

ました。

第3部では、第1部・第2部の講演者、實金清博病院長、渥美達也地域医療連携福祉センター長、及び樋田泰浩同副センター長、佐藤ひとみ看護部長を加えたパネルディスカッションを行い、主に入退院支援に関する業務の効率化、医療職から医療支援職種への業

務シフトや人材育成のあり方等について議論が展開されました。

当日は131名（院外98名・院内33名）の参加者があり、講演後の質疑応答やその後の懇親会まで、盛況のうちに本懇話会を終了しました。

（北海道大学病院）



實金病院長の挨拶



松本准教授による基調講演



パネルディスカッションの様子



懇話会の様子

平成30年度北極域課題解決人材育成講座「北極域科学概論」を開催

11月21日（水）・22日（木）、北極域研究共同推進拠点*主催による平成30年度北極域課題解決人材育成講座「北極域科学概論」を札幌、東京の二会場（二元中継）で開催しました。急激な海水の減少や環境変動が進行する北極域では、温暖化やそれに伴う異常気象が生態系と人々の暮らしや社会に及ぼす影響が顕在化しつつある一方、資源開発や北極海航路利用の可能性が高まるなど世界的に北極域における経済活動やガバナンスへの関心が高まっています。本講座は、第一線で活躍する自然科学から人文・社会科学までの研究者を講師陣に招き、俯瞰的な視野を持

ち北極域の課題解決に貢献する人材の育成を目的として、今回は北極域の「地理と歴史」「大気」「氷河・氷床」「海洋」「海の生態系」「陸の生態系」「北極海航路」「資源開発」「人間と社

会」「ガバナンス」それに「データマネジメント」に関する11の講義を行いました。受講者には事前に受講動機を記入いただき、多様な33名の受講者（民間企業13名、官公庁3名、大学・



札幌会場の様子
（三重大学大学院 飯島慈裕准教授「陸の生態系」の講義）



東京会場の様子
（筑波大学 礪波亜希准教授「ガバナンス」の講義）

研究機関等17名（内学生10名））それぞれが今後の業務や研究活動などへの期待を整理したうえで本講義に臨みました。

各講義では直面する北極域の課題などについて活発な質疑応答がなされ、自己紹介や交流会の中でも、学生からは将来の進学・進路に対する思いなど情報交換の輪が生まれました。社会人

からは環境変動の再認識や今後の職務への影響など多くの意見交換がなされ、参加者が一体感を醸し出す場面も見られるなど大いに盛り上がりました。

*北極域研究共同推進拠点

国立大学法人北海道大学北極域研究センター（中核施設）、大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構国立極地研究所国際北極環境研究センター（連携施設）、国立研究開発法人海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター（連携施設）の3基幹による連携ネットワーク型の共同利用、共同研究拠点。

（北極域研究センター）

脳科学研究教育センターで合宿研修を開催

脳科学研究教育センターでは、11月17日（土）・18日（日）の2日間、北広島クラッセホテルにおいて合宿研修を行いました。平成25年度から、多くの関係者が参加しやすいように札幌近郊で開催しています。

研修には、南 雅文副センター長をはじめ、文学、教育学、理学、生命科学、医学、薬学、保健科学の各研究科・研究院に属する教員9名、大学院生18名、事務職員2名の合計29名が参加しました。2日間の研修では、大学院生の口頭による研究発表（研修Ⅰ～Ⅳ）、基幹教員の講演（研修Ⅴ～Ⅶ）、センターが提供する大学院共通科目や学部生の一般教育科目などについての意見交換（研修Ⅷ）を行いました。大学院生の発表では、研究が始まったばかりの修士課程1年生に加え、昨年も合宿に参加した修士課程2年生や博士

課程の履修生の研究成果を見聞することができ、研究の進捗を知ることができました。さらに今年は学部生が取り組んでいる研究についても発表がありました。

例年通り、発表会では大変活発な質疑応答があり、合宿後のアンケートでも「もっと討論する時間を取って欲しい」という要望が多数寄せられました。また、今年度は9名の基幹教員の講演があり、それぞれ最先端の知見を織り交ぜた研究室紹介が行われました。これらの研修を通して脳科学研究への理解を深めるとともに、深夜に及ぶ懇親会も含め、学生と教員の間で大変有意義な部局を越えた交流を行うことができました。

この合宿研修は、ともすると所属研究室の研究テーマや実験手法のみに偏りがちな大学院教育を、分野の垣根を

越えて融合させることを目指す本センターの最も重要な活動の一つとなっています。平成25年度から受け入れている本専攻修士生及び将来の履修生の参加や、温泉付きのリゾートホテルでの開催も大変好評で、来年度も多くの関係者の参加を期待しています。

（脳科学研究教育センター）



参加者の集合写真



発表の様子



研修会の様子



懇親会の様子

初代総長佐藤昌介の扁額を大学文書館で受贈

11月12日（月）、大学文書館では、和歌山県在住の卒業生の方から、初代総長佐藤昌介の自作漢詩を書した扁額をご寄贈いただきました。寄贈者のご夫人のご祖母様が佐藤のご一族から、掛け軸として譲り受けられ、今夏、修復と額装をされたそうです。

佐藤昌介（1856-1939年）は、第1期生として札幌農学校に入学し、卒業後にアメリカ留学などを経て母校の教授に就任し、校長（札幌農学校）・学長（東北帝国大学農科大学）・総長（北海道帝国大学）として約40年にわたり本学を牽引しました。また、「北海農人」の雅号を用いて書をよくし、漢詩も作りました。

ご寄贈いただいた書は「甲子初夏」（1924年初夏）の筆で、春に秋の収穫を期待する自作の七言絶句を揮毫しています。佐藤の書としてはやや小振りですが、一際端正な印象を残します。

書は以下の28文字です。

春風度水曉嵐濃
西落東郊將力農
偏願家々耕稼後
金秋收穫穀千鐘

漢詩の書き下し、口語訳についても、寄贈者からご教示をいただきました。

【書き下し】

春風水を度り曉嵐濃やかなり
西落東郊將に力農せんとす
偏えに願う家々耕稼の後
金秋の收穫穀千鐘ならん

【口語訳】

春の風が川面をわたり、明け方の空気がしっとりとしてみずみずしい。西の野も東の平野も農耕に力を尽くすことであろう。

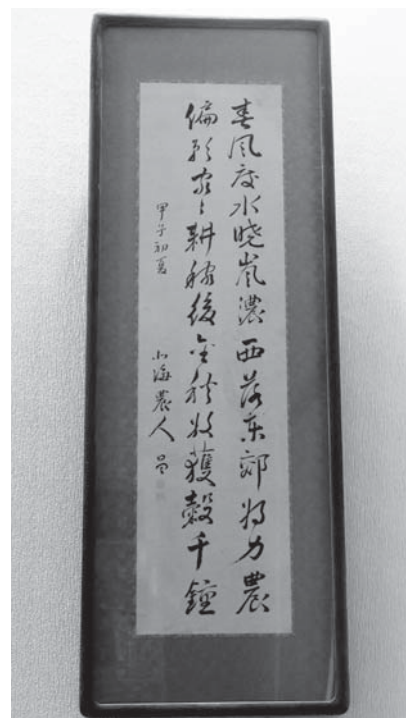
ひとえに願う、各家々が耕作に励んだ後に、実りの秋を迎えて、収穫の穀物が千個の釣り鐘のようにどっさりと得られることを。



閲覧室での扁額展示

ご寄贈いただいた扁額は、来夏まで、新渡戸稲造や内村鑑三の扁額と共に、大学文書館閲覧室において展示・公開を行ないます。開館時間（平日9:30～16:30）にご覧いただけます。

（大学文書館）



佐藤昌介揮毫の扁額

田中義麿関係資料を大学文書館で受贈

11月13日（火）、大学文書館では、田中義麿博士の旧蔵資料を、辛島由美子氏より新たに1箱受贈しました。辛島氏からは、昨年9月13日及び19日にも4箱ご寄贈いただいております。大学文書館では目録作成・保存袋収納・デジタル化等の整理を進めています。

田中義麿（1884-1972）は、1884（明治17）年長野県に生まれ、松本中学校を卒業後、1903年札幌農学校予修科に入学、1905年には本科に進学しました。本科では八田三郎・須田金之助両教授に師事し、動物学・養蚕学を専攻し、絹糸腺の形態について論文をまとめ、1909年に卒業しました。卒業後

は、母校で助手（1909～11年）、助教授（1911～21年）を務め、1913（大正2）年には日本で初めて独立の科目として「遺伝学」の講義を行いました。その後、欧米留学（1919～22年）を経て、新設間もない九州帝国大学農学部に出向、養蚕学講座担任として後進を育成し、同大学を退職後は国立遺伝学研究所（1949～56年）に籍を置き、蚕の遺伝学的研究の礎を築きました。

辛島氏からご寄贈いただいた資料には、中学生の頃から記された日記、写真、「遺伝学」受講生のレポート（1910年代）、研究講演メモ・原稿、蚕図・動物学関連スケッチ、新聞記事スク

ラップ、辞令類、学位記・勲記等の証書などです。写真は、各時期（長野、



松本中学校入学記念（1897年）

札幌、海外留学、九州帝国大学、国立遺伝学研究所)の肖像・集合写真が、裏書きも詳細に残っています。寮歌「都ぞ弥生」の作詞をした学生(横山芳介)や、桑園博士村の田中邸の写真など、本学の歴史を彩る写真も多く含まれております。

大学文書館では、田中義磨助教授の講義「遺伝学」を記録した学生ノート(樋口櫻五受講)も所蔵しており、今後、受贈した資料と合わせて、企画展示や資料公開等を通じて、紹介してまいります。

(大学文書館)



札幌農学校本科2年生(1906年)



中央講堂前にて(1919年)



桑園博士村の田中邸(1913年頃)



養蚕学教室の人々(1918年)



九州帝国大学にて(1937年)

■ 諸会議の開催状況

役員会(平成30年11月5日)

報告事項・第3期中期目標期間評価(4年目終了時評価)について

- ・ Society 5.0に対応した高度技術人材育成事業未来価値創造人材プログラムの選定結果について
- ・ 平成30年度科学技術人材育成費補助事業「データ関連人材育成プログラム(D-DRIVE)」の選定機関の決定について
- ・ 平成30年度資金の運用状況について(上半期)
- ・ 国立大学等施設整備費予算について(平成30年度補正予算案)

教育研究評議会(平成30年11月14日)

報告事項・ Society 5.0に対応した高度技術人材育成事業未来価値創造人材プログラムの選定結果について

- ・ 平成30年度科学技術人材育成費補助事業「データ関連人材育成プログラム(D-DRIVE)」の選定機関の決定について
- ・ 国立大学等施設整備費予算について(平成30年度補正予算案)

役員会(平成30年11月14日)

議案・病院再開発に係る目的積立金の活用について

報告事項・共同利用・共同研究拠点の中間評価結果について

- ・ 業務上の余裕金の運用に係る認定について
- ・ 平成29事業年度決算剰余金の繰越承認について
- ・ 平成30年度中間決算について
- ・ 平成30年度病院収支見込(中間決算時点)について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成30年11月14日海大達第155号)

国立大学法人北海道大学資金運用管理規程

(平成30年11月14日海大達第156号)

業務上の余裕金の運用について、文部科学大臣の認定を受けたことに伴い、所要の定め及び改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(平成30年12月1日海大達第157号)

ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用について、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学情報基盤センター大型計算機システム利用規程の一部を改正する規程

(平成30年12月1日海大達第158号)

本学情報基盤センターが管理し、及び運用する大型計算機システムの更新に伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

■ 研修

研修名：平成30年度国立大学法人北海道大学会計実務研修

開催期間：平成30年10月17日～19日

開催場所：学術交流会館第4会議室

研修目的：会計事務に従事する職員に、実務に必要な本学の会計制度及び国立大学法人北海道大学会計業務実施基準等に関する基本的知識を付与することで、適正かつ効率的な事務処理技能を習得し、自らの役割を認識したうえで主体的に行動できるようになることを目的とする。



講義「会計職員の心構え」



班別討議



班別討議発表



修了証書授与

(財務部主計課)

研修名：平成30年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修クエリ編）

開催期間：平成30年11月27日・30日

開催場所：情報基盤センター

研修目的：基本的な情報セキュリティ等の知識及びAccessを利用して業務システムのデータを活用するための知識を習得すること



研修の様子

（総務企画部情報企画課）

表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
30.11.15	駐日フランス共和国大使館 Laurent Pic 大使	講演及び両国の交流に関する懇談
30.11.28	駐日ポルトガル共和国大使館 Francisco Xavier Esteves 大使	両国の交流に関する懇談
30.11.28	大連理工大学（中国）Guo Dongming 学長	両大学の交流に関する懇談
30.12.3	Engineering Research and Development for Technology フィリピン大学ディリマン校 Rizalinda De Leon 工学部長	理学・農学及び工学の交流に関する懇談



Laurent Pic 駐日フランス大使（中央左側）



Francisco Xavier Esteves 駐日ポルトガル大使（左）



大連理工大学（中国）Guo Dongming 学長（右）



Engineering Research and Development for Technology フィリピン大学ディリマン校 Rizalinda De Leon 工学部長（中央）

（国際部国際連携課）

訃報

名誉教授 あり ま しゅんろくろう 有馬 俊六郎 氏
(享年98歳)



名誉教授 有馬俊六郎先生が、平成30年9月16日に逝去されました。

先生は大正10年、神戸市にお生まれになり、昭和21年9月に北海道帝国大学農学部畜産学科を卒業され、昭和21年11月に同大学農学部畜産学科の助手となりました。その後、2年間の民間での勤務などを経て、昭和25年から同27年に北海道大学大学院特別研究生となり、昭和27年に再び北海道大学農学部の助手として勤務されました。その翌年の昭和28年9月に助教授、昭和39年7月に教授に昇任されております。その間、昭和34年2月から1年間、アメリカ合衆国マサチューセッツ州立大学に牛乳・乳製品に関する研究で留学されました。また、昭和36年に「潜在性乳房炎乳の理化学的性状」で、北

海道大学から農学博士の学位を授与されました。昭和42年4月には、新設の農学部附属酪農科学研究施設に配置換となり、昭和52年4月から同56年3月まで及び昭和58年4月から同60年3月まで同施設長を併任されました。昭和60年3月に停年退職され、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されております。北海道大学退職後は直ちに九州東海大学農学部の教授に就任され、平成4年3月に同大学を退職されました。

先生の業績は酪農・乳業にわたって幅広く、牛乳・乳製品の品質、製造技術、流通など牛乳の消費流通に関する基礎的研究だけではなく、乳成分の基礎的な物性や機能性にも深い関心を寄せられ、数多くの研究論文、著書を発表されました。先生と牛乳・乳製品との関わりについては、農学部畜産製造学教室で前野正久先生から頂いた卒業論文のテーマが「牛乳と人乳の蛋白質の差異」であったことが発端だとのこと。さらに在学中は太平洋戦争末期で、木製飛行機用の接着剤にカゼインを利用することが計画されていたために牛乳工場に勤労働員され、その経験から以後の乳蛋白質を軸にした研究

生活に繋がったそうです。

これら酪農・乳業に関する学術的かつ実践的な活動に裏付けられた貴重な人材として、日本酪農科学会副会長、日本畜産学会評議員、日本畜産学会北海道支部評議員を歴任されました。さらに学術団体だけではなく、酪農・乳業関連団体である北海道畜産振興審議会特別委員、北海道生乳取扱者技術認定事業運営委員および北海道生乳検査協会運営委員長、北海道酪農リース協会運営委員会委員長、北海道原料乳規格調査会委員、北海道乳質改善協議会顧問なども務められ、また日本乳業技術協会理事、日本国際酪農連盟理事としても長年にわたり貢献されてきました。これらの功績に対して、昭和58年に北海道科学技術賞を授与され、さらに平成9年春に勲三等旭日中綬章を受章されました。

最後に、先生は学生の時は恵迪寮生で、また野球部でピッチャーとして活躍されましたことを付記いたし、先生の長年にわたるご指導・ご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

(農学院・農学研究院・農学部)

資料

平成30年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

平成30年11月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文学部		3(2)				116(86)	119(88)
教育学部					1(1)	25(19)	26(20)
法学部				1(1)	1	14(11)	16(12)
経済学部		3(2)				47(33)	50(35)
理学部			1		9(4)	5(3)	15(7)
医学部	1				1	7(3)	9(3)
薬学部							0
工学部	1				1		2
農学部	29(3)		9(4)	1	14(3)	34(9)	87(19)
獣医学部	1(1)				3(2)	7(3)	11(6)
水産学部						7(6)	7(6)
現代日本学プログラム課程					1(1)	15(9)	16(10)
高等教育推進機構総合教育部	13(4)				39(29)		39(29)
合 計	45(8)	6(4)	10(4)	2(1)	107(58)	277(182)	447(257)

大学院等

部 局 名	国費留学生			外国政府派遣留学生			私費留学生				合 計
	修士課程	博士課程	研究生等	修士課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職	博士課程	研究生等	
文 学 研 究 科	1(1)	11(4)	3(1)		2		75(65)		48(28)	17(12)	157(111)
法 学 研 究 科	1(1)				2(1)		29(13)		9(1)	39(29)	80(45)
情 報 科 学 研 究 科	2(1)	5(1)	2(1)		4(1)		47(6)		39(15)	16(3)	115(28)
水 産 科 学 研 究 院	1(1)	5(1)			4(3)		12(6)		13(4)	5(2)	40(17)
水 産 科 学 研 究 院			1							1(1)	2(1)
環 境 科 学 研 究 院	10(4)	15(7)			4(2)		69(34)		48(24)	7(5)	153(76)
地 球 環 境 科 学 研 究 院			2(1)							26(14)	28(15)
理 学 研 究 院	5(1)	13(3)			1		23(12)		34(7)	2(2)	78(25)
理 学 研 究 院			2(2)							8(3)	10(5)
薬 学 研 究 院			1(1)								1(1)
農 学 研 究 院	11(7)	21(13)			2(1)		41(22)		47(12)	4(2)	126(57)
農 学 研 究 院			3(1)			1				16(12)	20(13)
生 命 科 学 研 究 院	3	25(9)		1	3(1)		45(21)		28(10)	3(1)	108(42)
先 端 生 命 科 学 研 究 院										3	3
教 育 学 研 究 院		3(3)			1(1)		38(31)		12(8)	2(1)	56(44)
教 育 学 研 究 院			2(1)							2(1)	4(2)
メディア・コミュニケーション研究院			3(2)							25(18)	28(20)
国際広報メディア・観光学院	4(4)	1(1)			1		66(57)		18(12)	6(4)	96(78)
保 健 科 学 研 究 院		2(2)					11(9)		2(2)		15(13)
保 健 科 学 研 究 院										20(13)	20(13)
工 学 研 究 院	28(7)	28(7)			18(3)		97(27)		52(14)	20(7)	243(65)
工 学 研 究 院			3			2(1)				44(17)	49(18)
綜 合 化 学 院	2	10(8)			7(2)		31(11)		38(14)	4	92(35)
経 済 学 研 究 院	5(2)	4(1)					67(51)	9(3)	6(5)	3(2)	94(64)
経 済 学 研 究 院							1		1		2
医 学 研 究 院	1(1)	5(3)					5		13(7)		24(11)
医 学 研 究 院										4(3)	4(3)
医 学 研 究 院		4(1)			2				10(6)		16(7)
歯 学 研 究 院									7(3)		7(3)
歯 学 研 究 院			1(1)							1(1)	2(2)
歯 学 研 究 院		1(1)									5(3)
獣 医 学 研 究 院		8(2)							4(2)		15(5)
獣 医 学 研 究 院			1(1)						7(3)		3(1)
獣 医 学 研 究 院		13(6)							14(9)		27(15)
医 理 工 学 研 究 院									4(1)		4(1)
国 際 感 染 症 学 研 究 院		10(5)							7(2)		17(7)
国 際 食 資 源 学 研 究 院							6(3)				6(3)
公 共 政 策 学 教 育 部								21(16)			21(16)
公 共 政 策 学 連 携 研 究 部										10(6)	10(6)
低 温 科 学 研 究 所			2(1)							1(1)	3(2)
電 子 科 学 研 究 所						1(1)				7(1)	8(2)
遺 伝 子 病 制 御 研 究 所			1(1)							4	5(1)
触 媒 科 学 研 究 所										9(3)	9(3)
スラブ・ユーラシア研究センター			1(1)							5(2)	6(3)
情 報 基 盤 セ ン タ ー										4(2)	4(2)
人獣共通感染症リサーチセンター										2	2
量子集積エレクトロニクス研究センター										1(1)	1(1)
北方生物園フィールド科学センター										3(1)	3(1)
観 光 学 高 等 研 究 セ ン タ ー										1(1)	1(1)
高 等 教 育 推 進 機 構										5(2)	5(2)
合 計	74(30)	184(78)	28(15)	1	51(15)	4(2)	663(368)	30(19)	461(189)	332(173)	1,828(889)

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生			日本語研修生		合 計
	国 費	外国政府派遣	私 費	国 費	私 費	
	20(14)	4(3)	21(13)	12(2)	17(10)	74(42)

外国人留学生等

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研究生等	日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 〔「留学」以外〕	留学生及び外国人学生 総 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
162(70)	738(398)	30(19)	696(282)	649(377)	74(42)	2,349(1,188)	62(25)	2,411(1,213)

* () 内は女子を内数で示す

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

(学務部国際交流課)

平成30年度国別外国人留学生数

平成30年11月1日現在

[illegible]

* () 内は女子を内数で示す

(学務部国際交流課)

北大時報掲載記事事項別一覧（平成30年掲載分）

表紙

- 1月号 ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第33回「赤い糸会&緑の会」を開催
 2月号 ・女子中高生の理系進路選択支援プログラム 講義型科学体験イベント「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」全3回を開催
 3月号 ・一般入試前期日程の合格発表（2018.3.7）
 4月号 ・平成30年度入学式
 5月号 ・構内初の新感覚コンビニエンスストアオープン発表と株式会社セコマとの「地域創生連携協定」締結
 6月号 ・「第1回日露大学協会総会」及び「日露学生フォーラム」を開催
 7月号 ・5研究所・センター合同で一般公開を開催
 8月号 ・新感覚コンビニエンスストア セイコーマート北海道大学店 グランドオープン
 9月号 ・平成30年度オープンキャンパスを開催
 10月号 ・北海道大学ホームカミングデー2018「歓迎式典・記念講演会」
 11月号 ・北方生物圏フィールド科学センター「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」
 12月号 ・SAPPOROおみやげパワーアップフェア in 北大

裏表紙

- 1月号 ・北の鉄道風景（58）札幌市電
 2月号 ・北の鉄道風景（59）霧氷の朝
 3月号 ・北の鉄道風景（60）キハ183系気動車
 4月号 ・北の鉄道風景（61）残雪の山
 5月号 ・北の鉄道風景（62）エゾヤマザクラ
 6月号 ・北の鉄道風景（63）北海道新幹線
 7月号 ・北の鉄道風景（64）ジャガイモの花咲く頃
 8月号 ・北の鉄道風景（65）夜行列車が往く
 9月号 ・北の鉄道風景（66）初冠雪を迎えて
 10月号 ・北の鉄道風景（67）晩秋の石勝線夕張支線
 11月号 ・北の鉄道風景（68）雪晴れの山線を駆ける汽車
 12月号 ・北の鉄道風景（69）終焉近き札沼線

総長告辞等

- 1月号 ・年頭の挨拶
 4月号 ・告示（学士学位記授与式，入学式）

全学ニュース

- 1月号 ・瀬川信久名誉教授が日本学士院会員に選定
 ・大学入試センター試験の実施
 ・第20回ソウル大学校－北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
 ・特別フォーラム：Special Forum：University's Role in Mega Sports Events
 ・分科会2：2017 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology
 ・分科会3：The 12th Japan-Korea International Symposium in Ophthalmology
 ・分科会4：2017 SNU-HU-NTNU-KU Joint Symposium for Science Education - New perspectives on educational research and practice for the knowledge society
 ・分科会5：Infection and Immunity - from the Basic to Applied
 ・分科会6：Sociological Reflections on Current Issues in East Asia
 ・分科会8：The 6th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering:Recent Progress on Microstructure-Process-Property Relationship in Minerals
 ・分科会9：5th SNUH-HUH-SHH Joint Symposium
 ・北大フロンティア基金
 ・平成29年度補正予算案（第1号）案等（本学関係分）の主要事項
 ・株式会社北海道新聞社と包括連携協定を締結
 ・中国科学院大学と大学間交流協定を締結 海外オフィスの設置について合意
 ・イギリスの最先端の研究者2名による講演会を開催
 ・平成29年度第1回HUCIフォーラム「大学の国際化に向けて」を開催
 ・高等教育研修センターにて研修会を開催
 ・「平成29年度冬山登山講習会」を開催
 ・産学連携からベンチャー始動 海藻資源をビジネス化
 ・ライフサイエンス系 新技術説明会を開催
 ・ものづくり系 新技術説明会を開催

- ・第1回食品産業エルム会 in 大阪「機能性食品セミナー」で講演
 - ・学生による社会企業のアイデアコンペ「ハルトプライズ」の学内選抜会を開催
 - ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第33回「赤い糸会&緑の会」を開催
- 2月号**
- ・インドネシアリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催
 - ・北海道大学一般入試の志願状況
 - ・AO入試合格者の発表
 - ・国際総合入試合格者の発表
 - ・北大フロンティア基金
 - ・ロシア・太平洋国立大学学長等が来学
 - ・ソウル大学校新聞会が本学を訪問
 - ・新渡戸フェローゼミ全体発表会を開催
 - ・女子中高生の理系進路選択支援プログラム 講義型科学体験イベント「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」全3回を開催
 - ・北海道大学・東北大学・名古屋大学の若手研究者による合宿を開催
 - ・北海道大学・東北大学・名古屋大学合同シンポジウム～連携型博士研究人材総合育成システムシンポジウム2017～を開催
- 3月号**
- ・平成29年度北海道科学技術賞に本学から2氏
 - ・梅村孝司名誉教授が「平成29年度北海道社会貢献賞（国際協力功労者）」を受賞
 - ・北海道大学一般入試（前期日程・後期日程）及び私費外国人留学生入試の実施と合格者の発表
 - ・韓国北海道大学ヨルリョンチョ会総会を開催
 - ・北海道大学欧州同窓会を設立、ヘルシンキで同窓会懇談会及びアンバサダー委嘱状交付式を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成30年度予算案（本学関係分）の主要事項
 - ・平成29年 北大ベンハロー賞授与式を挙行
 - ・国際連携機構日本語研修コース修了式（2017年10月入学者）
 - ・平成29年度春季外国人留学生フェアウェルパーティーを開催
 - ・ルワンダ大学で「日本留学フェア」を開催
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催
 - ・レアアース（希土類）レスモーターを「札幌モーターショー2018」に出展
 - ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第34回「赤い糸会&緑の会」を開催
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションが「バイオマスリファイナリー：バイオマス作物から化成品・バイオ燃料生産に関する国際シンポジウム」を開催
- 4月号**
- ・平成29年度学位記授与式の挙行
 - ・総長告辞（学士学位記授与式）
 - ・来賓祝辞（学士学位記授与式）
 - ・平成30年度入学式の挙行
 - ・総長告辞（入学式）
 - ・平成30年4月 教育研究組織の改革
 - ・本学永年勤続者表彰に55氏
 - ・名誉教授に11氏
 - ・国立研究開発法人農業・職員産業技術総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結
 - ・「サステナブルキャンパスマネジメント本部」を設置
 - ・平成29年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行
 - ・平成29年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行
 - ・北海道地区国立大学教養教育連携実施事業成果報告フォーラムを開催
 - ・平成30年度北海道大学の予算
 - ・北大フロンティア基金
 - ・新渡戸スクール修了式を挙行
 - ・平成29年北大えるむ賞授与式を挙行
 - ・平成29年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
 - ・平成29年度北海道大学クラーク賞授与式を挙行
 - ・平成29年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙行
 - ・平成29年度北海道大学特別修学支援活動賞授与式を挙行
 - ・平成29年度北海道大学企業研究セミナーを開催
 - ・タイリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催
 - ・フィリピンリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催
 - ・中国北京リエゾンオフィス開所式及び中国科学院大学丁仲礼（テイ・チュウレイ）学長北海道大学名誉学位記授与式の開催
 - ・平成29年度第2回HUCIフォーラム「HUCI構想の軌跡と大学のグローバル化・グローバル教育の将来像」を開催
 - ・北海道大学交流デー（ウメオ大学）を開催
 - ・北海道大学交流デー（浙江大学）を開催
 - ・名和総長が清華大学を訪問
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催

- ・「大学等における安全保障貿易管理勉強会」を開催
 - ・北海道大学特別学生「onちゃん」が第2学年に進級決定
 - ・本学入学式において産学連携の取り組みをアピール
- 5月号**
- ・中村太士農学研究院教授に紫綬褒章
 - ・春の叙勲に本学から1氏
 - ・構内初のコンビニエンスストアオープン発表と株式会社セコマとの「地域創生連携協定」締結
 - ・北海道大学ディステイニングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙
 - ・名和総長がロシア大学学長会議総会に出席
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北大フロンティア基金「北大みらい投資プログラム」の創設
 - ・「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙
 - ・北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
- 6月号**
- ・「第1回日露大学協会総会」及び「日露学生フォーラム」を開催
 - ・林 芳正文部科学大臣が本学を視察
 - ・名和総長が日中大学フェア&フォーラムに出席
 - ・名誉教授称号授与式の挙
 - ・北海道大学アンバサダー（フィンランド）委嘱状交付式を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・札幌キャンパスで第15回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
 - ・春のガレージセールを開催
 - ・平成30年度新渡戸カレッジ入校式を挙
 - ・平成30年度新渡戸スクール入校式を挙
 - ・平成30年度CoSTEP開講式を開催
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催
 - ・「米国外交官に学ぶ異文化コミュニケーションセミナー」を開催
- 7月号**
- ・清水建設株式会社と次世代高性能材料開発に向けた産学共同研究に着
 - ・北海道大学発のベンチャー企業2社が「北洋SDGs推進ファンド」の第一号出資先に決定
 - ・「北海道大学入試改革フォーラム2018」を開催
 - ・名和総長が浦項工科大学校（POSTECH）の教職員研修で講演
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北大フロンティア基金「秋の特別キャンペーン」のお知らせ
 - ・平成30年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙
 - ・平成30年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙
 - ・平成30年度科学研究費助成事業大型研究種目に採
 - ・「キャンパスマスタープラン2018」説明会を開催
 - ・情報セキュリティセミナーを開催
 - ・北海道地区国立大学法人等情報化連絡協議会の開催に併せ情報セキュリティインシデント模擬訓練を実施
 - ・化学物質取扱講習会及び化学物質管理システム取扱説明会を開催
- 8月号**
- ・船水尚行名誉教授が「平成30年度北海道社会貢献賞（国際交流・協力功労者）」を受賞
 - ・タイ農業協同組合省（MOAC）、地理情報・宇宙技術開発期間（GISTDA）との連携協定を締結
 - ・名和総長が英国4大学を訪問
 - ・新感覚コンビニエンスストア セイコーマート北海道大学店 グランドオープン
 - ・北海道大学 緑のピアガーデン2018を開催
 - ・緑のジンギスカンWineガーデン&Beer祭りを開催
 - ・海外同窓会代表者の情報交換会を開催
 - ・北海道大学アンバサダー（英国）委嘱状交付式を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成30年度北海道大学入試説明会を実施
 - ・清華大学・北海道とフォーラムを共催
 - ・忠北大学校 尹 汝杓（ユン・ヨビョ）総長に北海道大学名誉博士を授与
 - ・平成30年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙
 - ・平成30年度「ホリデーイン日高」を開催
 - ・平成30年度北海道大学公開講座「去る時代、来る時代を考える」が終了
 - ・平成30年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を北方生物圏フィールド科学センターの荒木教授が受賞
 - ・札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施
 - ・「第3回 北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう！」を開催
 - ・「BIO tech 2018アカデミックフォーラム」に出展
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第6回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催
- 9月号**
- ・「北海道150年事業関連企画～MIT石井裕教授を北大に迎えて～」を開催

- ・札幌市と国際会議等（MICE）に関する連携協定を締結
- ・名和総長がインド工科大学ハイデラバード校及びボンベイ校他を訪問
- ・KDDI×北海道大学 中学生向けサイエンススクール「五感で感じる南極体験」を開催
- ・札幌キャンパスを駆け抜ける - 北海道マラソン2018 -
- ・北大フロンティア基金
- ・平成30年度オープンキャンパスを開催
- ・「北海道大学進学相談会」を東京で開催
- ・平成30年度北海道大学鈴木章記念賞 - 自然化学実験 - 被表彰者の決定
- ・平成30年度小島三司奨学金受給者の決定
- ・平成30年度中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業を剣淵町で実施
- ・2018年新渡戸スクールメンターフォーラムを開催
- ・高等教育推進機構日本語研修コース修了式（2018年4月入学者）
- ・高等教育研修センターにて各研修等を開催
- ・イノベーション・ジャパン2018に出展
- ・第4回食科学プラットフォームセミナー「海藻資源の新たな活用」を開催
- ・「ウラジオストク航海」に本学学生が参加
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第1回放射線生物サマースクール及び第5回医学物理サマースクールを開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）と遺伝子病制御研究所（IGM）が合同シンポジウムを開催

10月号

- ・北海道大学ホームカミングデー2018の開催
 - ・総務企画部広報課
 - ・歓迎式典・記念講演会
 - ・文学研究科・文学部、教育学院・教育学研究院・教育学部、法学研究科・法学部、経済学院・経済学研究院・経済学部
 - 文系4学部合同公開企画「いままでの北海道 これからの北海道 - 森田美由紀さんをお迎えして」・同窓会総会・同窓会懇親会
 - ・水産科学院・水産科学研究院・水産学部、北水同窓会
 - 水産学部卒業生のつとめ～講演会、懇親会～
 - ・環境科学院・地球環境科学研究院、環境科学同窓会
 - 松野環境科学賞授賞式、修了生による講演会、コース・研究室紹介パネル展示、懇親会
 - ・理学院・理学研究院・理学部、理学部同窓会
 - 理学部ホームカミングデー 理学部企画・学科訪問、同窓会総会、理学部&同窓会交流会
 - ・薬学研究院・薬学部
 - 薬学部生涯教育特別講座秋季講演会
 - ・農学院・農学研究院・農学部
 - 市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」
 - ・国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院
 - ホームカミングデー@IMCTS2018（修了生meet在学生2018）
 - ・保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科
 - 保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）
 - ・工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科
 - 北海道大学工学系イノベーションフォーラム2018、北工会サークル展示、同窓生向け講演会、同窓生との全体懇親会
 - ・医学院・医学研究院・医学部
 - 北海道大学医学部フラテ祭2018
 - ・歯学院・歯学研究院・歯学部
 - 北大の歯学教育、研究、臨床の現状 - 次の50年の第一歩として -
 - ・獣医学院・獣医学研究院・獣医学部
 - 獣医学部同窓会平成30年度通常総会、新評議員会・新理事会、フォーラム・交流会、懇親会
 - ・北方生物圏フィールド科学センター
 - 「生物生産研究農場」ミニツアー、植物園見学
 - ・総合博物館
 - 企画スタッフによる企画展「視ることを通して」展示解説、北大ミュージアムクラブMouseionによる展示解説
 - ・大学文書館
 - 企画展示「「北大」の愛称100年」、「女性が切り拓いた研学の場—女性の北大入学100年」
 - 常設展示「北大生の群像」、「札幌農学校遊戯会」、「新渡戸稲造と遠友夜学校」
 - ・公認学生団体（学務部学生支援課）
 - 北海道大学写真部 ホームカミングデー展
 - ・北大キャンパスビジットプロジェクト
 - キャンパスツアー - 現役北大生とめぐるキャンパス今昔 -
 - ・大学力強化推進本部
 - 「寄附で応援！北大の研究」アンビシャスな交流会
 - ・北海道大学校友会エルム
 - OB講演会及び在学生との懇談会、保護者会員懇談会・キャンパスツアー

- ・ほっかいどう同窓会
ランチパーティー
- ・一般社団法人恵迪寮同窓会
寮歌の集い
- ・北大フロンティア基金
- ・平成30年度北海道大学インターンシップを実施
- ・名和総長がロシア連邦ハバロフスク市とウラジオストク市を訪問
- ・笠原理事・副学長が北極圏大学総会（UArctic Congress）に出席
- ・北海道大学交流デー（慶南科学技術大学校）を開催
- ・ケープタウン大学で「日本留学フェア・合同学術交流ワークショップ」を開催
- ・ウズベキスタン北海道大学アンバサダー パフティヨル・イスラモフ教授及び同国フェルガナ州副知事ムクシンク
ジャ・アブドラモノフ氏との懇談会を開催
- ・『「研究」で笑い、『研究』で考える』を開催～イグ・ノーベル賞創設者 マーク・エイブラハムズ氏と、北大の受賞者が語
り合う～
- ・平成30年度教員免許状更新講習を開催
- ・Integrated Science Program（ISP）入学式を挙行政
- ・「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コ
ース」入学式を挙行政
- ・独立行政法人日本学術振興会 平成29年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の
表彰に工学研究院の松井教授が選出
- ・生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭を挙行政
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第35回「赤い糸会&緑の会」を開催

11月号

- ・文化功労者に名誉教授 宇井理生氏
- ・秋の叙勲に本学から1氏
- ・平成30年度文部科学省国際拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択～「化学
反応創成研究拠点（ICReDD）」の開始～
- ・文部科学省「卓越大学院プログラム」（平成30年度）に本学の「One Health フロンティア卓越大学院」が採択
- ・文部科学省「超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業」（平成30年度）に本学が採択
- ・文部科学省「データ関連人材育成プログラム（D-DRIVE）」（平成30年度）に本学が採択
- ・日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS地域）の受託及びモスクワ国立大学で「日本留学フェア」を開催
- ・笠原理事・副学長が中国科学院大学設立40周年式典に出席
- ・北海道大学交流デー（モスクワ国立大学）を開催
- ・「北海道大学進学相談会」を大阪で開催
- ・北大フロンティア基金
- ・イチョウ並木の一般開放を実施
- ・スイス北海道大学アンバサダー エーリッヒ・ウィンドハブ教授及び武田靖名誉教授来学に際し、総長表敬及び欧州同
窓会関係者懇談会を実施
- ・「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に20名の研究者が参加
- ・九州大学とキャンパス計画マネジメント交流会議を開催
- ・平成30年度補正予算案（本学関係分）の主要事項
- ・秋のガレージセールを開催
- ・新入留学生オリエンテーションを実施
- ・高等教育推進機構等自衛消防訓練を実施
- ・高等教育研修センターにて研修会を開催
- ・情報セキュリティ対策セミナー等を開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションが「世界の食資源システムを回復させるための国際
シンポジウム」を開催

12月号

- ・総合博物館 小林快次准教授に北海道文化奨励賞
- ・AO入試合格者の発表
- ・国際総合入試合格者の発表
- ・帰国子女入試合格者の発表
- ・大学入試センター試験、本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
- ・北大フロンティア基金
- ・10年にわたる大型研究プロジェクト、WPI-ICReDDの幕開け前夜
- ・「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業で出張講義を実施
- ・「しなやかなタフポリマー」による革新的コンセプトカー“ItoP”を一般公開
- ・平成30年度国立大学法人運営費交付金の追加配分（本学関係分）の主要事項
- ・2018年第2回新渡戸スクールメンターフォーラムを開催
- ・北海道大学総長奨励金給付証書及び北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行政
- ・2018WinGS Global Networking Award受賞者が決定
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第36回「赤い糸会&緑の会」を開催

- ・衛生管理者連絡会を開催
- ・「SAPPOROおみやげパワーアップフェア in 北大」を開催
- ・シンポジウム「北海道の魚類養殖－新たな可能性を探る－」を開催
- ・平成30年度第1回サステナブルキャンパス推進員会議を開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーション、人獣共通感染症グローバルステーションが外部評価でS評価を獲得

部局 ニュース

- 1月号**
- ・喜田 宏ユニバーシティープロフェッサー・名誉教授にタマサート大学（タイ）が名誉公衆衛生学博士号を授与
 - ・平成29年度 薬学部成績優秀賞授与式を挙行
 - ・観光学高等研究センター公開講座「デスティネーション・マネジメントと地域のこれから」が終了
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター2017年度冬期国際シンポジウム「ロシア革命と長い20世紀」開催
 - ・環境健康科学研究教育センターが環境と健康に関する市民講演会「これまでの成果と今後の展望～WHO研究協力センターとしての役割～」を開催
 - ・文学研究科で「LGBTフレンドリーなキャンパス作りのための教職員研修」を開催
 - ・教育学研究院でフォーラム「子どもの貧困を考える－北海道・札幌市における子どもの生活実態調査から－」を開催
 - ・農学研究院で安全保障輸出管理FD・平成29年度第2回農学研究院FD研修会を開催
 - ・工学系部局で「第2回こころのケアに関する講習会」を開催
 - ・第12回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催
 - ・低温科学研究所技術部で第7回技術部セミナーと第23回技術報告会を開催
 - ・生命科学学院がアクティブラーニング形式の「Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）」を開催
 - ・歯学研究院で自衛消防訓練を実施
 - ・附属図書館で「救命導入（AED）講習会」を開催
 - ・「院生・若手研究者のための英語論文執筆セミナー」を開催
 - ・北大元気プロジェクトのイベント開催に附属図書館が協力
 - ・総合博物館で生体展示「小さな小さなホ乳類 トウキョウトガリネズミ」を開催
 - ・北海道大学病院で「第57回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を実施
 - ・北海道大学病院が夕張市市民公開講座を開催
 - ・北極域研究センターが第4回北極域オープンセミナーを開催
 - ・北極域研究推進プロジェクト（ArCS）の国際シンポジウムを開催
 - ・突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点が地域を守る防災技術者のリカレント教育に講師を派遣
- 2月号**
- ・薬学研究院が「創薬に向けた構造免疫学と構造ウイルス学の国際シンポジウム：オックスフォード大学との国際連携」を開催
 - ・文部科学省高等教育局専門教育課企画係長らが工学研究院を訪問
 - ・工学研究院で「大学の世界展開力強化事業（インド）」のキックオフイベントを開催
 - ・農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
 - ・地球環境科学研究院・環境科学学院でFD研修会を開催
 - ・経済学部で特別講演会を開催
 - ・Ambitiousリーダー育成プログラムが理系博士課程留学生を対象としたキャリアセミナーを開催
- 3月号**
- ・低温科学研究所が紋別市と連携協定を締結
 - ・平成29年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏技術職員研修を開催
 - ・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2017」を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院で博士論文の指導法に関するFD研修会を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院で平成29年度第2回研究セミナーを開催
 - ・「大学院水産科学院・水産学部主催業界研究セミナー」を開催
 - ・平成29年度水産科学院・水産学部外国人留学生送別懇談会を開催
 - ・工学研究院で北海道工学教育協会研究集会を開催
 - ・大学院授業の一環として学生がミュージアムグッズ「デスモスチルスUSB」を開発
 - ・マサチューセッツ大学図書館員を附属図書館に招聘
 - ・保健センターで第7回健康キャンパス北大「『うつ』って何？あなたの周りの人のための心の応急処置を学ぶ」を開催
- 4月号**
- ・歯学研究院・歯学院がサッポロデンタルカレッジと部局間交流協定を締結
 - ・法学研究科・法学部優秀賞授与式を挙行
 - ・北海道大クラーク賞、函館市長賞及び水産科学院の各種表彰授賞式を挙行
 - ・水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙行
 - ・物質科学リーディングプログラム（ALP）パイロット生の修了式を挙行
 - ・タイ王国司法裁判所研修団が法学研究科で特別講義を受講
 - ・特別学部学生onちゃんが法学部を訪問
 - ・経済学研究院で研究会「デジタル化時代の日本のものづくり」を開催
 - ・経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
 - ・医学研究院寄附分野「総合女性医療システム学分野」感謝状贈呈式及び記念シンポジウムの開催

- ・多様な色覚を持つ多くの人に配慮した理学部広報誌「Sci」第2号を発行
 - ・工学系部局で平成29年度工学系企業研究セミナーを開催
 - ・薬学研究院が「第11回薬学研究院研究発表会」を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院が上海と北京で留学説明会及び同窓会を開催
 - ・国際食資源学院「ワンダーフォーゲル実習Ⅱ」をミャンマーで実施
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
 - ・国立東華大学（台湾）との国際合同実習「2018 Joint International Training Course on Ecological and Environmental Research in Taiwan」を開催
 - ・観光学高等研究センターが「第6回CATS観光創造研究会」を開催
 - ・「2017 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences（2017年度SAGE－北大社会科学国際優秀論文賞）」授与式を挙げる
 - ・環境健康科学研究教育センターが平成29年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第14期修了生に修了証書授与
 - ・数理・データサイエンス教育研究センターが「公開シンポジウム：数理・データサイエンスの人材育成と社会応用」を開催
 - ・総合博物館で第10回「卒論ポスター発表会」を開催
 - ・小中学生向け科学体験イベント「さっぽろサイエンスフェスタ in 北大」を開催
 - ・北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催
 - ・藤井純子関係資料を大学文書館で受贈
 - ・保健センターで平成29年度第2回緊急対応研修を実施
- 5月号**
- ・ベトナム・ホーチミン市長を団長とする視察団が農学研究院ビークルロボティクス研究室の農業用ロボットトラクタを視察
 - ・第43回時計台サロン イグ・ノーベル賞受賞記念講演会を道新ホールで開催
 - ・薬学部で新入生歓迎会を開催
 - ・平成30年度薬学実務実習開始セレモニーを挙げる
 - ・環境科学院及び文学研究科による「北大道新アカデミー」への協力
 - ・工学研究院で寄附分野「地域防災学分野」の開設式を挙げる
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙げる
 - ・総合博物館で写真パネル展「シマエナガさんの12ヶ月」を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院で履修証明プログラム「デスティネーション・マネージャー育成プログラム」開講式を開催
 - ・物質科学リーディングプログラム（ALP）がタイ国立遺伝子生命工学研究センターで海外サマーキャンプを開催
- 6月号**
- ・「ロバスト国際農林水産工学キックオフフォーラム」を開催
 - ・北極域研究センターがロシア北方（北極）連邦大学と部局間交流協定を締結
 - ・獣医学研究院動物実験施設竣工記念式典を挙げる
 - ・獣医学院とエジンバラ大学獣医学部がコチュテル・プログラムの覚書を締結
 - ・獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催
 - ・平成30年度理学院優秀研究奨励賞授与式を挙げる
 - ・函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・メディア・コミュニケーション研究院でバイリンガル言語獲得に関する講演会を開催
 - ・環境科学院で「留学生のキャリア支援セミナー」・「FD研修会」を開催
 - ・植物園で夏期開園開始
 - ・大学文書館で1970～1980年代学生関係資料を受贈
 - ・看護週刊－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施
 - ・北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流
- 7月号**
- ・経済学部成績優秀者表彰式を挙げる
 - ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナー「生産とロジスティクス－役割／特色／今後も－」を開催
 - ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナー「日本にポピュリズムは存在するか？：米国ジャパノロジストの洞察」を開催
 - ・会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
 - ・5研究所・センター合同で一般公開を開催
 - ・環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
 - ・薬学研究院で薬害をテーマにFD研修会開催
 - ・人獣共通感染症リサーチセンターがコンゴ民主共和国におけるエボラウイルス病対策に貢献
 - ・突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点が北海道防災・減災セミナー「北海道における防災・減災の視点」を開催
 - ・第3回トップオブザワールド北極圏ブロードバンドサミットを開催
 - ・北極域観光国際会議“Sustainability is Cool in Arctic Tourism”を開催
- 8月号**
- ・獣医学研究院・獣医学部が札幌市動物管理センターと連携協定を締結
 - ・薬学研究院・薬学部及び生命科学院が英国・オックスフォード大学と部局間交流協定を締結
 - ・低温科学研究所が揚州大学生命科学及び技術学院と部局間交流協定を締結
 - ・法学研究科、公共政策学連携研究部でFD研修を開催

- ・経済学院・会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
- ・第11回日本数学会季期研究所及び市民講演会を開催
- ・薬学部で第21回生涯教育特別講座夏季講演会を開催
- ・平成30年度薬学研究院FD講演会を開催
- ・工学系部局で「第1回こころの健康セミナー」を開催
- ・農学研究院で平成30年度第1回FD研修会を開催
- ・ミュージアム学芸員リカレント教育プログラム開始～公開シンポジウムの開催
- ・スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「移りゆく北極域と先住民社会－土地・水・氷」開催
- ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「世界の言語と文化」が終了
- ・北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を開催
- ・総合博物館で博物館の「建物」に注目する学生企画ワークショップを開催～めぐる建物 感じる歴史 みんなのまなざし再発見～
- ・北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- ・北海道大学病院で「第58回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
- ・北海道大学病院が夕張市市民公開講座を開催
- ・北海道大学病院でデジタルサイネージを導入
- ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行政
- ・フィンランドをテーマとした図書展示とブックトークを開催
- ・北海道大学150年史編集準備室を開室

9月号

- ・「学生相談総合センター」看板上掲式を挙行政
- ・学芸員リカレント教育プログラム特論 装飾するギャラリートークと舞台芸術「アートが紡ぐ古代の物語」を開催
- ・夏の礼文島で考古学調査の国際フィールドスクールを開催
- ・教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2018（夏季北大プログラム）を開催
- ・法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「アジアと向き合う－温故知新－」が終了
- ・法学研究科でサマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題－特許法をめぐって－」を開催
- ・法学部同窓会寄附講義「Be ambitious 2018」を開講
- ・公共政策大学院が「地方公務員向け・地方議員向けサマースクール」を開催－地方創生について討議－
- ・薬学研究院で「第12回薬学研究院研究発表会」を開催
- ・薬学研究院で「The 4th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を開催
- ・農学院・農学部及び国際食資源学院がシンガポール国立大学との「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」～Agriculture as a domestic culture & industry in a new globalization era～を開催
- ・農学院で「留学生オリエンテーション」を開催
- ・「第1回東アジアイノベーション促進フォーラム～ The 1st Korea-China-Japan Joint Symposium 2018: Creating Value Through Interdisciplinary Collaboration for the 4th Industrial Revolution～」を開催
- ・初代忍路丸船名板を水産学部で受贈
- ・水産科学研究院でひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～「これが意外とムズカシイ！海岸動物の社会関係」を実施
- ・北大農場公開2018「ロボットトラクタ未来農業～ロボットたちが待っている、ちょっと未来を感じよう！～」
- ・電子科学研究所で物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会及びダイナミック・アライアンス成果報告会を開催
- ・第5回北極域オープンセミナーを開催
- ・東海林蔵関係資料を大学文書館で受贈

10月号

- ・学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）くみたて和室×煎茶のコラボレーションイベントを開催
- ・理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
- ・理学院・理学研究院でPusan National Universityとの学生交流シンポジウムを開催
- ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行政
- ・工学研究院で寄附分野「循環・エネルギー技術システム分野」の第4回シンポジウムを開催
- ・「防災技術イノベーション研究会 Robust BOSAIシンポジウム」を開催
- ・農学研究院で平成30年度第2回FD研修会を開催
- ・平成30年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
- ・平成30年度地球環境科学研究院公開講座「化学物質から読み解く過去・現在・未来の地球環境」が終了
- ・国際広報メディア・観光学院が英国シェフィールド大学及び豪州メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
- ・「酪農から見えてくる北大観光の未来」を開催
- ・電子科学研究所で「サイエンスレクチャー2018」を開催
- ・北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも堀り」を開催
- ・北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
- ・北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林における台風被害について
- ・附属図書館で「柴田元幸トークライブ～アメリカ文学200年の魅力～」開催
- ・附属図書館本館に「論文の書き方コーナー」を新設
- ・故金田弘夫博士の旧蔵資料を大学文書館で受贈

11月号

- ・歯学院・歯学研究院・歯学部が台北医学大学と部局間交流協定を締結

- ・文学研究科でアカデミック・ハラスメントに関するFDを開催
- ・法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティを開催
- ・経済学院・経済学研究院・経済学部で外国人留学生懇親会を開催
- ・保健科学研究所公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- ・第10回ロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」を開催
- ・工学系部局で救急救命講習会を実施
- ・環境科学院・地球環境科学研究所でFD研修会を開催
- ・国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院，観光学高等研究センターで研究倫理に関するFD研修会を開催
- ・メディア・コミュニケーション研究院で，留学生と中国語シニア学習者との学習交流ワークショップを実施
- ・動物慰霊式を挙行
- ・北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
 - ◆海の森の調査隊～おしよろで“こんぶ”の役割を考える～
 - ◆体験！ベリー研究の最前線“君も育種家になろう！”
 - ◆北海道の魚たちをまるごとリサーチ
 - ◆生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方
 - ◆農業をささえる名脇役～緑肥作物ってなんだろう？～
 - ◆挑戦！イクラをさかんにしてみよう！
- ・北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙行
- ・函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
- ・消防訓練等の実施
- ・環境健康科学研究教育センター市民講演会「SDGsを考える～暮らし・教育・健康～」を開催
- ・第16回 脳科学研究教育センターシンポジウム「脳科学の最前線－活躍する女性研究者－」を開催
- ・リーディングプログラム新プログラム生の採用式を実施
- ・突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点及び公共政策大学院が北海道胆振東部地震緊急フォーラムを開催
- ・突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点で平成30年北海道胆振東部地震での土砂災害対応へ技術的な支援
- ・1920年卒業記念写真帖を大学文書館で受贈
- ・学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）平成30年度「大学における文化芸術推進事業」報告会に参加
- ・農学研究院ビークルロボティクス研究室の野口伸教授が人気小説シリーズ及びドラマへ協力
- ・農学研究院で第11回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- ・生命科学院で「第6回生命科学国際シンポジウム」を開催
- ・第1回（平成30年度）法学研究科アドバイザー会議を開催
- ・医理工学院で第2回学生研究発表会及び第2回企業との交流会を開催
- ・環境健康科学研究教育センター，人獣共通感染症リサーチセンターが第3回世界保健機関西太平洋地域協力センターフォーラムに参加
- ・平成30年度低温科学研究所公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了
- ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「中国文学の中の食－美食をめぐる謎－」が終了
- ・経済学部で札幌国税局長の特別講演会を開催
- ・経済学部で特別講演会を開催
- ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
- ・第13回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催
- ・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
- ・工学研究院等安全衛生管理室で企業等見学研修会を実施
- ・歯学研究院で「動物供養祭」を挙行
- ・薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行
- ・北海道大学病院で平成30年度地域連携懇話会を開催
- ・平成30年度北極域課題解決人材育成講座「北極域科学概論」を開催
- ・脳科学研究教育センターで合宿研修を開催
- ・初代総長佐藤昌介の扁額を大学文書館で受贈
- ・田中義磨関係資料を大学文書館で受贈

お知らせ

- 2月号 ・過半数代表候補者の決定
- 3月号 ・共済組合員の皆様へ 被扶養者の認定又は取消等の届出は速やかに
- 4月号 ・北海道大学病院 北海道で初の「臨床研究中核病院」として承認
 - ・平成30年度 人間ドック・特定健康診査の実施について
- 5月号 ・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設
- 6月号 ・加藤紘之名誉教授が平成30年春の叙勲で瑞宝中受賞を受賞
 - ・「セイコーマート北海道大学店」の開店について
 - ・「緑のビアガーデン」を開催
 - ・「緑のジンギスカン&ワイン&ビア」を開催

- 7月号 ・学術コンサルティング制度の新設について
 ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成29年度）」の概要について
 ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について
- 8月号 ・組合員証等の検認
- 9月号 ・総合博物館へのご寄附について
- 10月号 ・「キャンパス復興支援」について

寄稿等

- 3月号 ・定年退職を迎えるにあたって

博士学位記授与

- 1月号 ・課程博士28人，論文博士5人
- 4月号 ・課程博士292人，論文博士14人
- 7月号 ・課程博士33人，論文博士2人
- 10月号 ・課程博士91人，論文博士7人

同窓会との交流

- 4月号 ・函館同窓会「総会及び懇親会」

レクリエーション

- 3月号 ・教職員フットサル同好会が2018“コンサドーレ・エスポラーダカップ”全道市町村サッカー・フットサル大会に参加
- 8月号 ・平成30年度学内職員バドミントン大会（個人戦）の開催
- 9月号 ・平成30年度学内バレーボール大会の開催
 ・教職員テニス大会の開催
- 10月号 ・学内教職員ソフトボール大会の開催
 ・平成30年度 第48回 札幌社会人サッカーリーグに出場
 ・第57回 全日本教職員バドミントン選手権大会に出場
- 11月号 ・教職員テニス大会の開催

諸会議の開催状況（平成29年12月～平成30年11月分掲載）

学内規程

- 1月号 ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学病院特定臨床研究監査委員会規程の一部を改正する規程
 ・北海道大学学生相談室規程の一部を改正する規則
 ・北海道大学特別就学支援室規程の一部を改正する規則
 ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規則
 ・北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程
- 2月号 ・国立大学法人北海道大学ディステイングイッシュトップロフェッサー称号付与規程の一部を改正する規程
 ・北海道大学大学院医学研究院死亡時画像診断受託規程
 ・北海道大学環境健康科学研究教育センター規程の一部を改正する規程
- 3月号 ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学における独立行政法人等非識別加工情報の提供等に関する規程
- 4月号 ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規程
 ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学基金室規程を廃止する規程
 ・国立大学法人北海道大学フロンティア基金規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学内部監査規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学サステイナブルキャンパスマネジメント本部規程
 ・国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程
 ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
 ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
 ・北海道大学学位規程の一部を改正する規程
 ・教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程
 ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
 ・北海道大学大学院特別教育プログラム新渡戸スクール規程の一部を改正する規程
 ・北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

- ・国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学産業創出講座等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学宿舍貸与規則の一部を改正する規則
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター協議会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人国立大学法人北海道大学有害廃液取扱規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学旅費規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舍等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学工学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学水産学部附属練習船利用規程
- ・北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸共同利用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院経済学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程
- 5月号
 - ・国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院諸料金規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学学術コンサルティング規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程
- 6月号
 - ・国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程等の一部を改正する規程
 - ・北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程
- 7月号
 - ・国立大学法人北海道大学病院医療安全管理業務監査委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程等の一部を改正する規程
 - ・北海道大学NITOBED教育システム運営会議規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規程

- ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- 8月号
 - ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学学生委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学NITOBED教育システム運営会議規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学通則の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規程
 - ・北海道大学研究生規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語・日本文化研修コース規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語研修コース規程
 - ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学学生相談総合センター規程
 - ・北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程
 - ・北海道大学保健センター規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- 9月号
 - ・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程
- 10月号
 - ・国立大学法人北海道大学事務組織規程及び国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学技術支援本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学技術支援本部運営委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語・日本文化研修コース規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学教育研究組織の長の任命等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における教授会への意見聴取事項等に係る規程
 - ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学病院長候補者選考会議規程
 - ・北海道大学通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
 - ・北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学病院管理運営協議会規程
 - ・北海道大学大学文書館公文書室利用等規程の一部を改正する規程
- 11月号
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点規程
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の全部を改正する規程
 - ・北海道大学掲示等に関する内規を廃止する規程
- 12月号
 - ・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学資金運用管理規程
 - ・国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学情報基盤センター大型計算機システム利用規程の一部を改正する規程

研 修

- 1月号
 - ・平成29年度北海道地区国立大学法人等係長研修

- ・平成29年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修
- 3月号 平成29年度「プレゼンテーション」講座
- 5月号 平成30年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）
- 平成30年度法人文書管理に関する研修会（初任職員向け）
- 9月号 平成30年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修
- 10月号 平成30年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修
- 平成30年度Excelを用いたテキストデータ取扱講座
- 平成30年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修初級編）
- 11月号 平成30年度アドバイラストレータ研修
- 12月号 平成30年度国立大学法人北海道大学会計実務研修
- 平成30年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修クエリ編）

表 敬 訪 問

(海外)

- 1月号 ケンブリッジ大学 Matthew Gaunt教授, Astex社 Tom Heightman博士, David Reesチーフサイエンティフィックオフィサー
- 駐日ナイジェリア大使館 Mohammed Gana Yisa大使
- 中国科学院大学（中国）Ding Zhongli学長
- 2月号 忠南大学校（韓国）Oh Deog-Seong 学長
- 太平洋国立大学（ロシア）Sergei Ivanchenko 学長
- 3月号 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（米国）Evan H. DeLucia教授, ダートマス大学（米国）Lee Lynd教授
- 4月号 エステルイエータランド県（スウェーデン）Elisabeth Nilsson知事
- 5月号 ベトナム・ホーチミン市教育訓練局Le Hong Son局長
- 北京師範大学（中国）Zhou Zuoyu副学長
- 東北大学（中国）Zhao Ji学長
- 6月号 駐日ウズベキスタン共和国大使館 Gayrat Fazilov大使
- 駐日エストニア共和国大使館 Jaak Lensment大使
- 駐日ロシア連邦大使館 Mikhail Galuzin大使
- ハルビン工業大学（中国）Xu Dianguo副学長
- ポートランド州立大学（アメリカ）Rahmat Shoureshi学長
- ラップランド大学（フィンランド）Outi Snellmn国際部長
- 7月号 駐日イタリア大使館 Enrico Traversa科学技術部長
- 韓国国立外交院 Cho Byung-jae院長
- 中国医薬大学（台湾）Wen-Hwa Lee学長
- 8月号 忠北大学校 Yun Yeo-Pyo総長
- 在日インド大使館 Purnima Rupal参事官（科学技術担当）
- 国立台湾大学 Kuo-Hsien Su社会科学院院長
- 9月号 台北医学大学 Chien-Huang Lin学長
- 10月号 タイ農業協同組合省 Waraporn Prompoj統括監察官
- 11月号 Natural Resources Institute Finland（フィンランド）副所長, Kolström Taneli 博士, ワシントン州立大学（米国）Juming Tang教授
- 中山大学（中国）Jun Luo学長
- スイス連邦工科大学チューリッヒ校 Erich J.Windhab教授, 武田 靖本学名誉教授
- 12月号 駐日フランス共和国大使館 Laurent Pic 大使
- 駐日ポルトガル共和国大使館 Francisco Xavier Esteves 大使
- 大連理工大学（中国）Guo Dongming 学長
- Engineering Research and Development for Technology フィリピン大学ディリマン校Rizalinda De Leon工学部長

訃 報

- 1月号 名誉教授 中路 貴彦 氏
- 名誉教授 田中 利光 氏
- 名誉教授 高橋 忠義 氏
- 2月号 名誉教授 大賀 皓 氏
- 4月号 名誉教授 梨本 勝昭 氏
- 名誉教授 米田 徳彦 氏
- 5月号 名誉教授 入江 敏博 氏
- 財務部長 松本 歩 氏
- 6月号 名誉教授 山岸 俊男 氏
- 7月号 名誉教授 沢口 悦郎 氏
- 名誉教授 須貝 新太郎 氏
- 8月号 名誉教授 森田 穰 氏

- 9月号 ・名誉教授 三谷 鉄夫 氏
 ・名誉教授 石井 忠雄 氏
 10月号 ・名誉教授 松原 嘉市 氏
 11月号 ・名誉教授 田部 浩三 氏
 ・名誉教授 西 信三 氏
 ・名誉教授 稲辺 保 氏
 ・准教授 高見 敏子 氏
 12月号 ・名誉教授 有馬 俊六郎 氏

資	料
---	---

- 4月号 ・平成30年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
 ・平成30年度入学者の都道府県分布及び地域比率
 5月号 ・役職員数（平成30年 5 月 1 日現在）
 6月号 ・在籍学生数（平成30年 5 月 1 日現在）
 ・平成30年度外国人留学生数（平成30年 5 月 1 日現在）
 ・平成30年度国別外国人留学生数（平成30年 5 月 1 日現在）
 ・平成29年度卒業・修了者の就職等状況一覧
 11月号 ・役職員数（平成30年10月 1 日現在）
 ・在籍学生数（平成30年10月 1 日現在）
 ・広報誌等一覧（平成30年10月調査）
 12月号 ・平成30年度外国人留学生数（平成30年11月 1 日現在）
 ・平成30年度国別外国人留学生数（平成30年11月 1 日現在）
 ・北大時報掲載記事事項別一覧（平成30年掲載分）

編集メモ

●札幌では、先月下旬、平年より遅い初雪を観測しましたが、12月に入ってから最高気温が氷点下となる寒い日も多く、本格的な冬を迎えました。

●リテラボプリアや北大時報をいつもご覧いただき、ありがとうございます。

本年も皆様のご協力により、北大時報を発行することができました。お礼申し上げます。

広報誌はホームページでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

◆<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/>



2012.12.2 札沼線 豊ヶ丘（月形町）

北の鉄道風景 69 終焉近き札沼線

函館本線の桑園駅を起点とする延長76.5kmの札沼線。1935年の全線開業後、太平洋戦争の影響によって、1943年から石狩当別駅以北の区間が営業休止となったが、1956年に運行が再開された。その後、国鉄諮問委員会による「赤字83線」の指定を受けて、一部区間が1972年に廃止された結果、新十津川駅を終点とする、現在の姿となった。営業休止などの危機を乗り越えて、現在まで生き残ってきた同路線で

あるが、北海道医療大学駅以北の末端区間が近年中に廃止されることとなった。廃止の時期はまだ明示されていないが、早ければ2019年度内に廃止されるかもしれない。ここでとりあげた写真のような雪景色が見られるのも、来冬が最後になるのだろうか。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑫ No.777 平成30年12月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail: kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>